



国立大学法人  
和歌山大学

2025

## 地域連携プログラム活動報告書



## Local Partnership Program(LPP)

地域が抱える課題を住民とともに発見し、  
その解決方法を考える

和歌山大学観光学部



## はしがき

和歌山大学観光学部における「地域連携プログラム(LPP)」は、前身となる「地域インターンシッププログラム(LIP)」の取り組みをリニューアルする形で 2022 年度より再スタートし、4 年が経過しました。LIP の時代を含めると、2008 年度に開始されて以降、これまでに 238 件のプログラムが実施され、延べ 2,590 人の学生が地域での様々な活動を通じた実践的な学びの機会を得ています。今年度は、連携教育型 13 件、学生主導型 5 件の計 18 件のプログラムを実施することができました。学生の受け入れやプログラムの実施にご尽力いただいている地方自治体や関係諸団体の皆様のご支援とご協力に、心から感謝を申し上げる次第です。

さて本学部は、「観光経営」「地域再生」「観光文化」の 3 つの基本領域を軸として、これらの領域を融合的かつ横断的に学ぶカリキュラムに取り組んでいます。高度な専門性と現場での創造的実践力を獲得することを目標に、国際性を養う教育と国内外の地域の諸課題に向き合う実践型教育を重視する本学部のカリキュラムにおいて、地域の現場で起きている事柄を身をもって学ぶことができる LPP は、LIP の時代より観光学部の実践型教育の一翼を担う取り組みとして重要な位置を占めてきました。

LPP は、学生たちが主体性を発揮し、地域との連携・協働による活動を発展させることを意図しております。活動の中心となるのは知識や経験も未熟な学部の1・2年生であり、関係の皆さまには様々なご負担をおかけする場面もあるかと思えます。また、活動の結果として、現地調査や商品開発、イベント開催などの目に見える成果も多く得られておりますが、一方で想定通りに活動が進まないケースも見られるかと思えます。学生たちにとっては、そのような経験も含めて貴重な学びであり、自分たちの考え方や動き方、コミュニケーションの取り方など、活動のどこに問題があり、改善のために何をすべきかを地域の方々とともに試行錯誤するプロセスが、LPP においてはより重要です。そして地域の皆様におかれましても、学生たちとの協働を通じて、悩みや喜びをともに分かち合える関係性を築きながら、新たな気づきや、小さくとも意味のある成果が得られるならば、そのことが LPP の本来の価値であると考えております。

LPP の取り組みを、大学と地域の双方にとって実りあるものとするため、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026 年 3 月  
和歌山大学観光学部  
地域連携委員会 永瀬節治



# 目次

1. LPP の概要とこれまでの歩み.....	5
1) LPP の概要 .....	5
2) データでみる LPP の歩み .....	6
2. 2025 年度 LPP 活動報告 .....	10
和歌山県和歌山市	
ーサッカークラブを活用した地域活性化ー	
アルテリリーヴォ和歌山と学生がつくる地域共創プロジェクト.....	12
和歌山県紀の川市	
フルーツドレッシングの PR 企画・立案.....	14
和歌山県海草郡紀美野町	
棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた体験観光.....	16
和歌山県有田市	
防災で地域をつなぐ多世代交流まちづくり.....	18
和歌山県有田郡広川町	
和歌山県広川町の地場農産物を活用した新商品の開発.....	20
和歌山県日高郡美浜町	
美浜町の魅力発信と観光誘客 .....	22
和歌山県西牟婁郡上富田町	
旅する蝶を見に行こう！	
学生力と地域力で創造する地域交流コンテンツの開発 .....	24
和歌山県西牟婁郡すさみ町	
コモンの再生 First Step 『過疎地の芸術祭を通して、新たな観光の意味を 見出そう！』～すさみアートキャンプ 2025 における試行と実践～ .....	26
和歌山県新宮市	
新宮市を訪れる観光客のニーズ調査・分析及びコンテンツ発掘・発信 .....	28
大阪府貝塚市	
貝塚再発見！学生がつなぐ観光の可能性.....	30

大阪府阪南市	
阪南市の観光振興と魅力発信 .....	32
和歌山県有田郡有田川町	
学生との協働による棚田保全・集落支援活動 .....	34
沖縄県石垣市	
国立公園・石垣で学び、考える、観光ビジネスによる地域活性化 .....	36
和歌山県和歌山市雑賀崎	
雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用 .....	38
和歌山県海南市大崎	
アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、地域内外に伝える .....	40
和歌山県有田市宮原	
青みかん(摘果みかん)の価値を上げる .....	42
和歌山県田辺市龍神村	
地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化.....	44
和歌山県和歌山市	
まちなかの地域資源と公共空間を活用した和歌山市駅前のまちづくり.....	46
<b>3. 2025 年度 LPP 参加学生交流会の実施 .....</b>	<b>48</b>
<b>4. 2025 年度合同活動報告会の実施 .....</b>	<b>50</b>
1)発表について.....	50
2)発表の実施報告.....	53
<b>地域連携プログラム(LPP)の沿革 .....</b>	<b>65</b>

## 1. LPP の概要とこれまでの歩み

### 1) LPP の概要

和歌山大学観光学部では、学部創設の 2008 年度より、和歌山県内及び大阪南部の市町村などの協力のもと、地域が抱える課題を地域住民とともに発見し、その解決方法を考える「地域インターンシッププログラム」(LIP)を実施してきた。同プログラムは、地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって地域の課題や調査活動に取り組むもので、「学生と地域を活性化したい」、「地域の魅力を発見したい」といった地域からの提案を受け、毎年複数の活動を実施してきた。

LIP に参加する学生は、学内の事前学習や現地視察を通して地域の実情を学び、さらには現地調査や地域住民との交流、イベントの企画運営などを通じて、それぞれの地域の真の魅力や課題と向き合っていく。具体的なプログラムとしては、観光施設の職員や利用者への聞き取り、宿泊施設や農家民泊のモニター、集客イベントの企画運営、観光資源調査やマップ作成、就業体験などに取り組んできた。「この地域にはどのような観光資源があるか」、「埋れている観光資源はないか」、「観光資源が有効に活用されているか」、「どうすれば地域が元気になるか」。こうした課題に対して、地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動をしていく。このような対話や活動が、双方にとって新たな気づきの機会となることもこのプログラムの特徴である。

LIP は、こうした相互作用を通じて、地域住民は「ヨソ者」の力を活かしながらより自立的なまちづくり活動を行う力を、そして学生は地域住民の思いを理解しつつ、地域活性化の方法を提案できる力を養い、地域を支える人材として活躍することを目指し、2021 年度までに計 166 件のプログラムを実施し、延べ 1,800 名以上の学生が参加した<sup>1</sup>。

2022 年度からは、LIP の取り組みの中で見えてきた成果と課題を踏まえ、プログラムの持続可能な運用と質的向上を両立させるため、「地域連携プログラム(Local Partnership Program, LPP)」へと名称を変更し、新たなスタートを切った。

LPP では、観光学部教員と受入地域が連携して活動計画を作成し、学生を募集して活動を実践する「連携教育 LPP(L ゼミ)」と、学生が主体となり、地域と連携しながら活動を実践する「学生主導 LPP(L 活)」の 2 種類がある。L ゼミには、和歌山県内及び大阪南部の市町村など、地域から活動内容を公募する「地域公募タイプ」と、観光学部教員が地域での研究活動等の一部をプログラム化する「教員申請タイプ」の 2 つの実施形態がある。本プログラムでは、観光学部の教育カリキュラムの一環として、地域住民と連携した現場での学びを通じ、地域の観光振興および地域再生の実践を学ぶことのできる内容を含むことを実施の条件としている<sup>2</sup>。

---

<sup>1</sup> 2021 年度までの LIP の取り組みについては、観光学部ホームページを参照。  
(<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/internship/lip/index.html>)

<sup>2</sup> L ゼミは、単位として認定されている。単位取得のためには事前事後学習を含めて 30 時間以上の活動が求められ、活動時間に応じて、「基礎自主演習」または「プロジェクト自主演習」の単位が認定される。

## 2)データでみる LPP の歩み

観光学部の LPP は、その前身である LIP を含めて、2008 年度の開始から 18 年間にわたって実施してきた。ここでは、これまでの LIP および LPP の歩みについて、データをもとに示してしていく。

図 1 は、2008 年度以降の年度別実施プログラム数を示している。LIP がスタートした 2008 年度は 6 件であったが、2016 年度には最多の 21 件となり、その後一旦は減少したものの 2021 年度に再び最多の 21 件となった。

LPP がスタートした 2022 年度以降は、17～19 件の間で推移している。

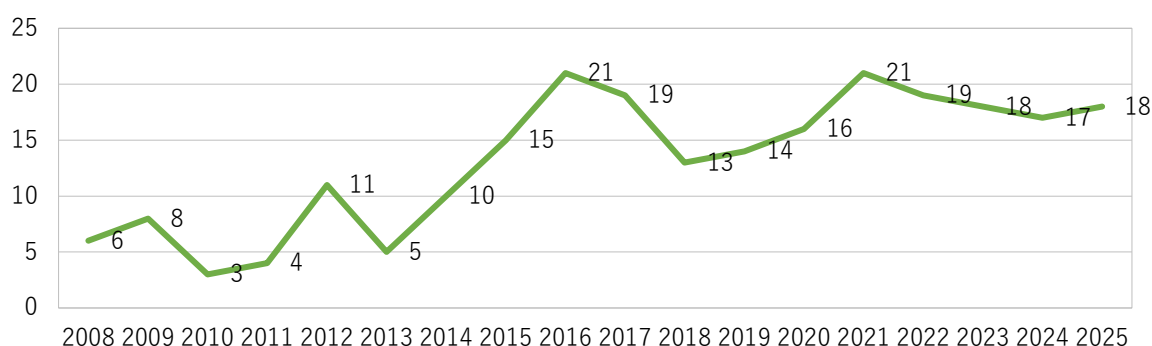


図 1 年度別プログラム数(全体)

図 2 は、年度別かつ区分別での実施プログラム数を示している。LIP がスタートした 2008 年度は現在の Lゼミ地域公募タイプ(地公)のみであったが、2011 年度からは観光学部専任教員からの申請により実施される教員申請タイプ(教申)が設置され、2022 年度の LPP スタートと同時に学生主導型のプログラムである L活が設置された。

LPP スタート(2022 年度)以降は 3 区分とも安定的なプログラム数で推移している。

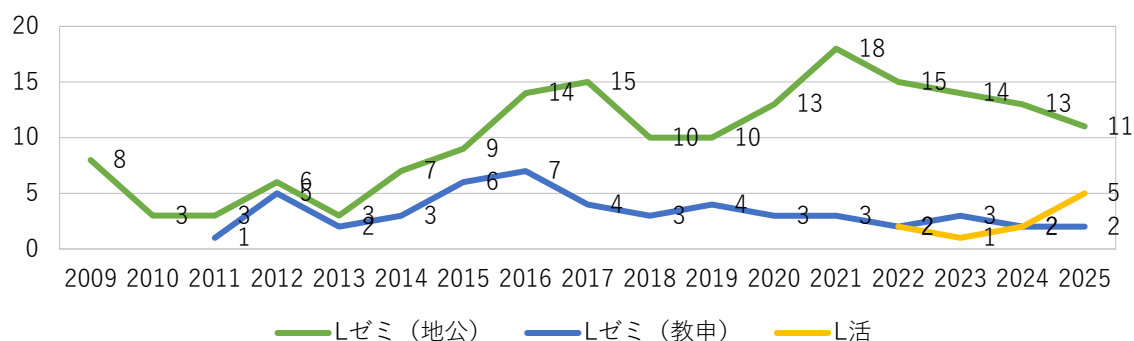


図 2 年度別プログラム数(区分別)

次に、図 3 は年度別の参加学生数を示している。参加学生の延べ人数は LIP がスタートした 2008 年度に 42 名であったが、2016 年には 227 名となり、初年度の 5 倍超となった。

LPP スタート(2022 年度)以降は減少傾向にあるが、「プログラムの持続可能な運用と質的向上を両立」という LPP の趣旨、新たに設置された L 活への移行などが主な要因として考えられる。

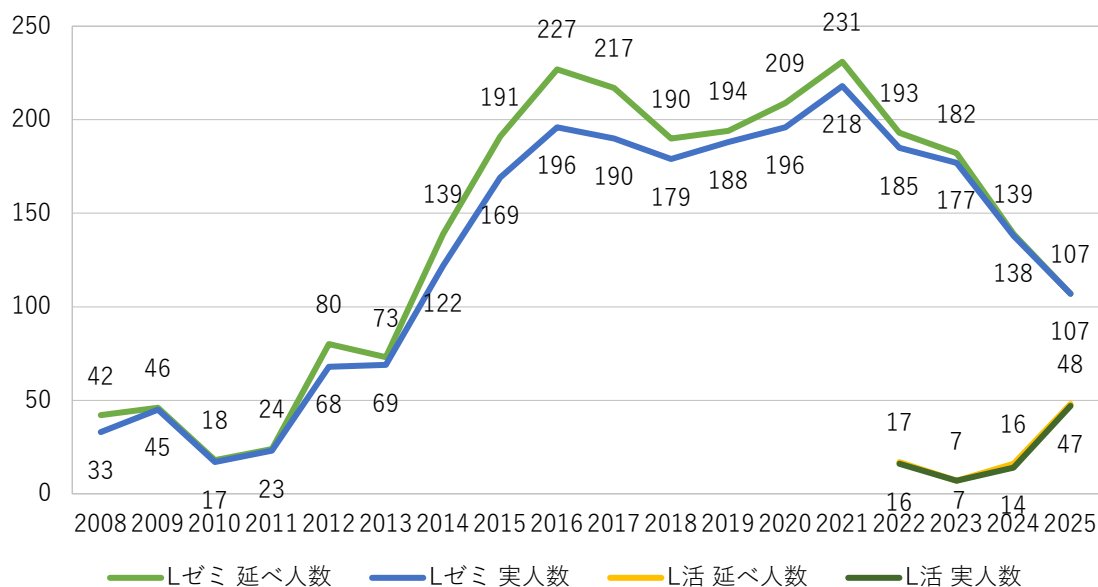


図3 年度別参加学生数

図 4 の通り、L ゼミでは 1 年生および 2 年生の参加が多い。低学年から地域での活動に関心を持ち、積極的に地域と関わりたいと考える学生が多いことを示している。

一方、L 活(図5)では、スタートした 2022 年度から 2024 年度までの 3 か年において、2 年生が最も多く 15 名、1 年生と 3 年生がそれに続く各 9 名であった。低学年から地域での活動に関心があることに加え、「L ゼミの期間を最長 2 年とする」制度変更によって、L ゼミから L 活への移行したプログラムの影響とも考えられる。

2025 年度には 3 年生が 18 名と大幅に増加したが、これは 11 月にゼミでの活動を継承する L 活プログラム(市駅まちづくり)が始まり、3 年生のゼミ生 9 名が加わったことも影響している。それ以外にも、2025 年度は 1~3 年生が全体的に大幅に増加しており、単位認定に縛られず、より自由に活動を選択する学生が増えている。

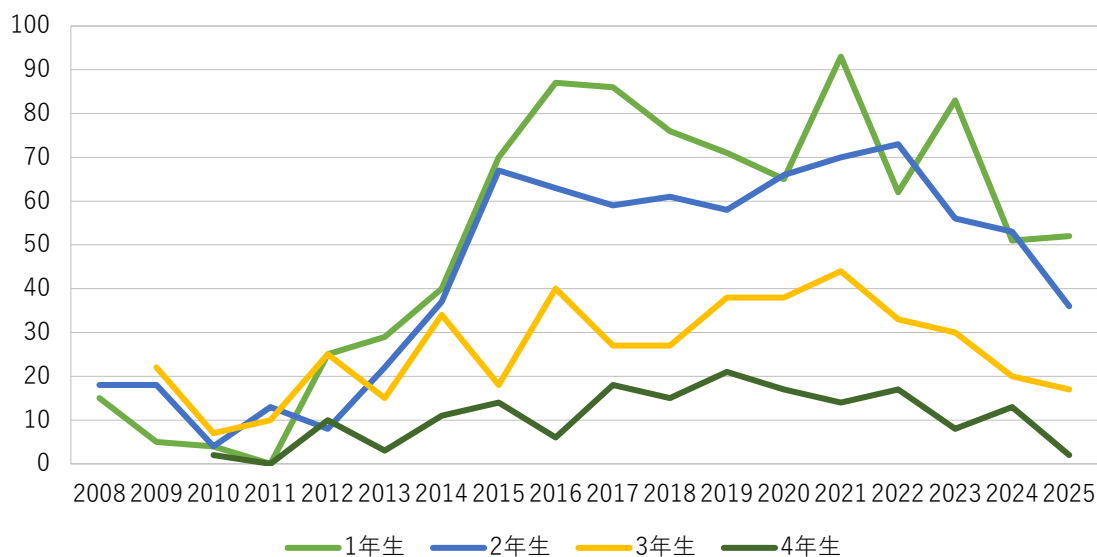


図4 学年別Lゼミ参加学生数の推移(実人数ベース)

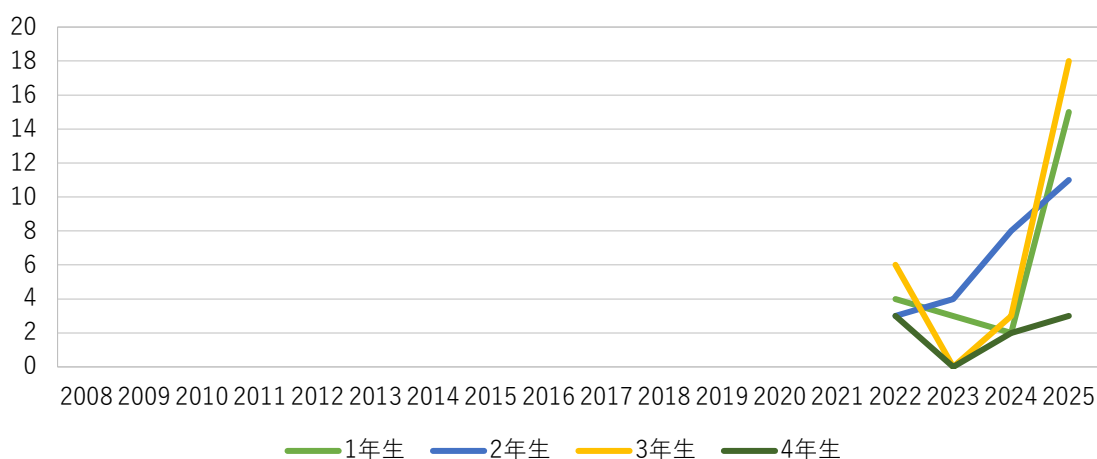


図5 学年別L活参加学生数の推移(実人数ベース)

図6に示すのは、プログラムあたりの平均参加学生数である。LIPがスタートした2008年度は7.0名だったが、2013年度に激増し14.6名となり、LIPの終了までおおむね同じ程度で推移した。

2022年のLPPのスタート以降は微減傾向にあるが、「質的向上」というLPPの趣旨に基づいた少人数でのプログラムの割合が増加してきていることが要因と考えられる。



図6 プログラムあたりの平均参加学生数(延べ人数ベース)

以上のように、LIP としての期間も含めて開始から 18 年となる本プログラムでは、L ゼミ 教員申請タイプやL活の設置などの対応により、参加学生および地域からのニーズに対応した活動が展開されてきていると考えられる。しかしながら、今後も継続的に本プログラムを実施するにあたっては、それぞれの取り組みの質の向上と学生自身が学びをより深めることができるプログラムを提供することが求められている。

(文責:観光学部 地域連携委員会)

## 2. 2025 年度 LPP 活動報告

2025 年度は、18 プログラムが実施され、延べ 155 名の学生が地域で活動を行った。  
以下に示すのが今年度の実施プログラムの一覧である。

### ■ Lゼミ(連携教育 LPP)地域公募タイプ

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	和歌山市	ーサッカークラブを活用した地域活性化ー アルテリーヴォ和歌山と学生がつくる地域共創プロジェクト	7 人
2	紀の川市	フルーツドレッシングのPR企画・立案	9 人
3	紀美野町小川	棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた体験観光	12 人
4	有田市	防災で地域をつなぐ多世代交流まちづくり	5 人
5	広川町	和歌山県広川町の地場農産物を活用した新商品の開発	7 人
6	美浜町	美浜町の魅力発信と観光誘客	15 人
7	上富田町	旅する蝶を見に行こう！学生力と地域力で創造する 地域交流コンテンツの開発	5 人
8	すさみ町	コモンの再生 First Step 『過疎地の芸術祭を通して、 新たな観光の意味を見出そう！』 ～すさみアートキャンプ 2025 における試行と実践～	3 人
9	新宮市	新宮市を訪れる観光客のニーズ調査・分析及び コンテンツ発掘・発信	8 人
10	大阪府 貝塚市	貝塚再発見！学生がつなぐ観光の可能性	18 人
11	大阪府 阪南市	阪南市の観光振興と魅力発信	9 人

### ■ Lゼミ(連携教育 LPP)教員申請タイプ

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	有田川町沼	学生との協働による棚田保全・集落支援活動	4 人
2	沖縄県石垣市	国立公園・石垣で学び、考える、観光ビジネスによる 地域活性化	5 人

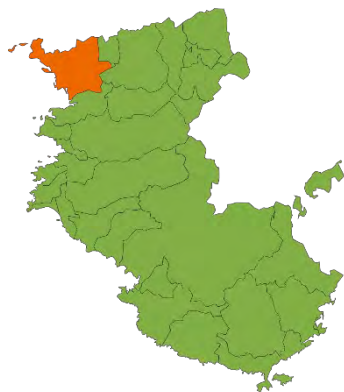
■ L活(学生主導 LPP)

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	和歌山市 雑賀崎	雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用	12人
2	海南市大崎	アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、 地域内外に伝える	7人
3	有田市宮原	青みかん(摘果みかん)の価値を上げる	6人
4	田辺市龍神	地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化	8人
5	和歌山市	まちなかの地域資源と公共空間を活用した和歌山市駅前 のまちづくり	15人

## 和歌山県和歌山市

### ーサッカークラブを活用した地域活性化ー

## アルテリーヴォ和歌山と学生がつくる地域共創プロジェクト



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:7名 (1年生:2名、2年生:2名、1年生:3名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:佐野 楓

#### 1. 活動実施の経緯

アルテリーヴォ和歌山は、地域密着型のサッカークラブとして試合運営を通じた地域貢献を展開しており、その公式試合は多様なステークホルダー(地域住民、サポーター、アウェイファン等)が交流する場となっている。本プログラムは、このフィールドを活用し、サッカー観戦と和歌山の地域特性を融合させた企画立案を行うものである。スポーツファンを介した地域資源の発信と、実践的な課題解決プロセスを通じて、学生にマーケティングおよび地域活性化の現地経験を積ませることを主たる目的とした。

#### 2. 活動の内容

学生に対し、以下の2点を主軸とした活動指導を行った。第一に、観客(スポーツファン)への地域魅力発信と、地域住民へのサッカー観戦訴求を目的とした企画の立案である。第二に、現状把握のためのアンケート調査およびデータ分析の実施である。また、学生を実際に公式試合会場へ派遣し、運営業務の補助や観察を行うことで、現場ならではの課題発見と実務への理解を深めさせるよう努めた。

#### 3. 活動を通じて

<課題点>初年度ということもあり、運営体制と進行管理において課題が残った。具体的には、関係者間(大学・クラブ・学生等)での目標共有が十分でなく、企画の立案から実施に至るプロセスが停滞した。結果として、学生が主体的に意見を出すことに躊躇する場面が見られ、具体的な企画実施まで到達させることができなかった点は、次年度に向けた指導上の反省点である。

<成果と教育的効果>一方で、当初はサッカー観戦経験の乏しい学生も多かった中、現場での運営業務に関与させたことは高い教育的効果をもたらした。「集客の現場で何が行われているか」を肌で感じ、机上の空論ではない実態に即した視座を獲得できたことは大きな収穫である。また、調査活動においては、学生の尽力により目標を上回る160サンプルの回答を得ることができた。観客の動向に関するこの定量データは、今後の連携活動における基礎資料として極めて有用であり、学生にとってもデータ分析の実践的な成果となった。

<今後の展望>本年度は具体的なイベント実施等の実績作りには至らなかったが、現場の課題感と基礎データを得られたことは、プロジェクトの土台作りとして意義があった。次年度は、関係者間の連携フローを再構築し、明確なKPI(目標)を設定した上で、学生がより計画的かつ主体的に活動できる環境を整備していきたい。

## 4. 成果ポスター

### アルテリーヴォ和歌山

和歌山市LPP

### ～サッカーチームを活かした地域活性化～

#### アルテリーヴォ和歌山とは

アルテリーヴォ和歌山は、和歌山市を本拠地に、将来のJリーグ入りを目指して活動する社会人サッカークラブです。現在は関西サッカーリーグ(日本の地域リーグ)で戦っており、地域トップレベルの力を持つチームとして優勝もしています。クラブは地域貢献や子ども向けスクールも行い、和歌山のサッカー文化を盛り上げる存在です。



#### アンケート分析

試合の来場者について、アルテリーヴォ和歌山に対する思いについて対する思いについて、状況を把握するために2025年7月13日の試合の際に、来場者を対象にアンケートを実施しました。

実施日:7月13日 回答者数 160件 『和歌山から悲願のJリーグへアンケートご協力お願い』

このクラブを、最初にどこで知りましたか? (必須回答)



ご年齢をお聞かせください。(必須回答)



どなたと来場されましたか? (必須回答)



クラブを知ったきっかけとして、チラシが2割であり、これまでクラブが取り組んできた学校でのチラシ配布が功を奏したことが分かりました。また家族友人からが3割を超えており、今年度は実現しませんでした。企画考案していた「友人招待キャンペーン」も試合集客や認知度向上に効果的であると考えられます。

- ・30代、40代が多く20代の若年層が少ない  
→ SNS発信に力を入れる
- ・「家族と」が最も多く、その次に「友人と」、「一人」  
→ 家族で楽しむ企画やお誘いキャンペーン、一人観戦需要を満たすものが必要

#### 試合会場に行って感じたこと

- ・会場には子ども連れの来場者が多く、試合後には選手と写真撮影をする子どもや女性ファンの姿が多く見られた。
- ・サッカー少年がたくさんいた
- ・屋台のフードを楽しみながら観戦している人も多く、試合以外の場面でも楽しんでいる様子が見られた。

#### 【マイナスと感じた点】

- ・試合後の写真撮影では混雑が見られたため、もう少し時間に余裕があれば、より落ち着いて写真撮影ができたと感じた。
- ・子どもと選手が近くで関わられる機会がさらに増えると、より多くの子どもにとって思い出に残る体験になると感じた。
- ・ユニフォームなどのグッズを身につけている人が少なかったように感じた。

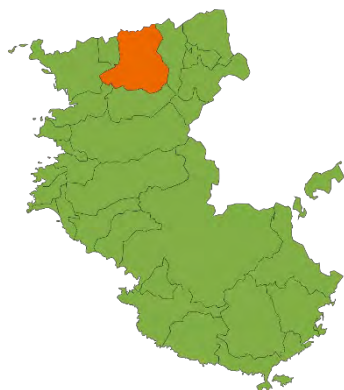


#### 来年度に向けて

今期から始まったこのLPPで私たちは現地での試合観戦やボランティア、アンケート調査などを行い、アルテリーヴォ和歌山の現状を見ることができた。しかし、今期の活動では、私たちが考えた企画を実行することができなかった。来期は今期の活動で分かったアルテリーヴォ和歌山さんの課題を解決することができるような企画を考え、実行したいと考えている。そのためにも、アルテリーヴォ和歌山さんとのコミュニケーションを増やすことや、学生間での話し合いの時間も増やしていく必要があると考えている。今後とも頑張っていきたい。

## 和歌山県紀の川市

### フルーツドレッシングの PR 企画・立案



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:9名

(1年生:2名、2年生:7名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:竹田明弘

#### 1. 活動実施の経緯

LPP(紀の川市)では、これまでフルーツを用いた数多くのスイーツ商品を提携企業、店舗と開発、販売してきた。本年度は、これまでの活動をさらに発展させ、また、紀の川市という名称の知名度を上げるための活動を目的とし、手

土産商品、加工商品の開発を目的としたプロジェクトをスタートさせた。本年は同プロジェクトの3年目である。

#### 2. 活動の内容

本年度は昨年度から観光特産センターこかわと共同で開発に取り組んでいた発酵フルーツドレッシングの商品完成、パッケージデザイン、ならびに販売に向けた広報活動(ポスター、パンフレット作成)、イベントへのブース出店(こかわつなぐマルシェ、および紀の川市産業まつり&食育フェアへのブース出店)を実施した。

本年度は、それに加えて、藤桃庵と共同で同店の売り上げ増加の起爆剤になることを目指し、フルーツパフェの商品開発活動を実施した。それについては現在も同店舗と共同活動の途中である。同商品は2026年3月末に発売予定である。

#### 3. 活動を通じて

成功する商品を開発するためにはインターネットから拾える情報や学生のアイデアだけではあまりに不十分である。また、商品として成功するためには、コスト、広報、商品開発能力や技術、他社や他店舗との競争戦略や差別化についても検討しなければならない。ただし、ビジネスに参与した経験がない学生にはその重要性に気づいていない。本活動で、学生はアイデアだけでは十分な商品を作ることができず、汎用な商品としかならないことに気づいたと思う。次年度は、他社や他店舗との競争に勝ち抜き、より店舗の売り上げや利益に貢献できる商品を開発するために、顧客データを分析し、そこでの情報を反映した商品開発活動を実施することを考えている。また、顧客データについては藤桃庵と店舗で提供する商品の共同開発を前提に、同店のPOSデータの収集と提供についてすでに依頼し、前向きな返答をいただいている。

## 4. 成果ポスター

# 紀 の 川 市 L P P

### フルーツドレッシングの商品開発

《メンバー》上原 吉田 横井 野見 渡邊 西口 田畠



#### ①活動内容

紀の川市粉河をフィールドとし、紀の川市観光特産センターこかわと紀の川市と共同で発酵フルーツドレッシングの開発を行いました。今年度は、ラベルの作成、商品の販売・PRを中心に活動しました。販売活動においては、紀の川市内のイベントにおいて2度の出店を行い、商品の魅力や特徴について多くの人に知ってもらう機会を作りました。またPR活動においては、チラシの制作を行い、様々な場所で配布を行いました。

#### ②テスト販売について

商品の見た目や味、価格が売れ行きにどのように影響するのかを調査するために2度のテスト販売を紀の川市のイベントにて実施しました。当日は試食スペースを用意し、実際に味見をしてもらう事で商品の販売促進に繋げ、これによって予想以上の本数を売り上げることができました。また、アンケートを用意し商品に対する意見を収集しそれらを少しずつ改善することでより良い商品作りに繋がられるよう工夫しました。



#### ③2年間の活動を通して

2年間の活動を通して、商品開発を達成することができた。その過程においては、市場調査やデザイン制作、現地訪問など多くの貴重な経験を積むことができました。また、地域の方々との交流を通して紀の川市の魅力に触れ、地域への愛着がより一層深まった。これらの経験を今後の学びや将来の進路に活かしていきたいと思えます。



### カフェのメニュー考案

《メンバー》野見 新田 赤水

紀の川市の人気カフェ「藤桃庵」様にご協力いただき、メニュー開発を行いました。味わいはもちろん、見た目にもインパクトのあるメニューを目指し、試行錯誤を重ねながら企画・提案を行ってきました。その結果、桃の中に紀の川市らしさを表現したキャラクターが入り込んだパフェのアイデアが採用されました。今後も現地での打ち合わせを重ねながら、完成を目指して取り組んでいきます。

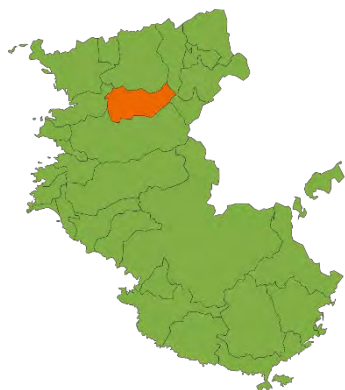
### まとめ

2年間の活動を通して紀の川市のフルーツを活かした発酵ドレッシングの開発を達成することが出来ました。その過程では、地域の方々との交流を重ねながらマーケティング調査やテスト販売、PR活動などを行い、商品を実際に販売するためのスキルを身につけることが出来ました。また、紀の川市の方々との交流を通してより紀の川市への愛着が深まりました。来年度からは、藤桃庵とのカフェメニュー考案を主な活動として取り組んでいきたいと考えています。



## 和歌山県海草郡紀美野町

### 棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた体験観光



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:12名

(1年生:5名、2年生:4名、3年生:2名、4年生:1名)

活動期間:2025年5月~2026年1月

担当教員:宋多情(永瀬節治)

#### 1. 活動実施の経緯

和歌山県紀美野町小川地区では、2020年より「中田の棚田再生プロジェクト」を通じて、耕作放棄地の復元とお米づくりに取り組んできた。活動5年目を迎える本年度は、棚田の持続可能性を高めるため、生物多様性や地域文化を活用した「体験観光プログラム」の開発が課題となった。特に、地域外部の視点を持つ観光学部が主体となり、景観を楽しむだけの消費的な観光ではなく、地域住民と参加者が双方向に交流できる教育的要素を取り入れた仕組みづくりを目指し、「棚田を学ぶ・棚田で学ぶ」をテーマに本プログラムを実施した。

#### 2. 活動の内容

本年度は、地域主体のプロジェクトへの参加と学生独自の調査・企画を組み合わせることで活動を展開した。5月は田植え作業に参加し、6月は学生主導による体験プログラム開発に向けた現地調査を実施した。10月は草刈り体験イベントに加わり、地域の方々と共に活動した。この過程で棚田の維持や活用への理解が深まり、独自のプログラム開発に向けた具体的なアイデアを得ることができた。これらの実践から得た知見を反映し、2026年1月18日に学生主体の試行イベントを開催した。学生12名が「企画・広報・ロジ」の3チームに分かれ、現場での学びを活かしてプログラムを設計・運営し、当日は13名の参加者に対し、棚田の魅力を「体験」と「学び」を通じて提供した。

#### 3. 活動を通じて

一連の活動を通じ、学生は実際のプロジェクト運営に深く関わることで、チームで動く力や現場の状況に応じた調整能力を養うことができた。また、地域の方々との交流や実地体験から得た学生の視点を活かし、それをイベントという形にする実践的な経験を得た。この一年間の取り組みは、来年度から予定されている学生主導型の「L活」への重要なステップとなった。今後はこの経験を土台に、より主体的な地域連携と棚田の価値発信をさらに深化させていく方針である。

#### 4. 成果ポスター



##### 紀美野町小川地区

和歌山県の北部に位置する紀美野町小川地区には、中田の棚田をはじめとした里山の風景が残っています。棚田は米づくりの場であると同時に、水や土と向き合う暮らしの知恵が詰まった場所でもあります。

##### 紀美野町小川LPP

私たちは、4年生1名、3年生2名、2年生4名、1年生5名の12名で活動しています。今年度は「棚田で学ぶ体験観光」を軸に、田植え・稲刈りなどの活動参加に加え、竹炊飯×防災体験イベントも実施しました。

##### 棚田で学ぶ防災：竹炊飯×クイズラリー

棚田の資源（竹・お米）を使って「もしもの時に役立つ知恵」を体験する、学生主体の試行イベントを実施しました。楽しさの中に、防災や地域理解の“学び”を入れることを意識しました。

- ・竹炊飯体験：竹を切るところから飯ごうづくり、火起こし、炊飯までを体験
- ・防災クイズラリー：棚田を歩きながら、地域・棚田・防災に関する問題に挑戦
- ・ねらい：棚田の魅力を「景観」だけでなく、「体験」と「学び」で伝える

- ・日時：2026年1月18日（日）10:00～14:00
- ・場所：紀美野町 中田の棚田
- ・対象：棚田サポーターズとご家族（試行イベントとして実施）
- ・参加：13名（子供4名/大人9名）



##### 運営体制 事前準備から当日運営まで、3チームで分担して進めました。



##### 企画チーム

10月の学生アンケートをもとに、竹炊飯と防災ワークの内容を設計。工程・必要物品・タイムスケジュールを作成し、現地の方との打合せも重ねました。当日は進行と参加者サポートを担当しました。



##### 広報チーム

告知ポスター・案内文・申込フォームを作成し、魅力が伝わる発信を工夫しました。当日は準備からイベント中の様子を中心に写真撮影を行い、記録づくりと豚汁づくりのサポートも担当しました。



##### ロジチーム

安全管理と運営面を担当し、受付・金銭管理・誘導・危険箇所での声かけ・備品管理を実施。会場全体を俯瞰して動き、トラブルの未然防止につなげました。事前準備が当日の落ち着いた対応につながりました。

##### 来年度の活動方針

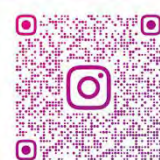
- ・今年度の反省を活かし、学生主体の体験イベントを継続して試行していきます。
- ・活動の幅を広げるために、棚田をより深く知れる仕組み（作業・学び・発信の連動）を整えます。
- ・今後は、田んぼ1面をお借りしてLPPで育てる活動も検討中です（地域の方と相談しながら進めます）。
- ・これまでの「Lゼミ」中心の関わりから、来年度は「L活」としての活動形態に移行予定です。

##### 紀美野町小川LPP Instagram



@KIMINO\_OGAWA\_LPP

##### 中田の棚田再生PJ Instagram



@KIMINO\_RICE\_TERRACE

## 和歌山県有田市

### 防災で地域をつなぐ多世代交流まちづくり



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:5名

(2年生:5名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:永瀬節治

#### 1. 活動実施の経緯

有田市箕島地区では、平成29年度より有田市社会福祉協議会や箕島地区の地域活動団体と連携しながら、多世代交流を通じた地域活性化に向けたLPP活動に取り組んできた。これまでの取り組みや地域との関係性を活かし

つつ、今年度から開始した本LPPは、「防災と多世代交流」をテーマに掲げ、防災に関する知識を知ってもらうためイベントの企画運営や、シニア世代向けにアプリの活用などを支援するスマホ講座の実施を通じて、学生と地域の子もたちから大人、高齢者までの多世代・異世代との交流を活性化させることを意図したプログラムである。

#### 2. 活動の内容

今年度は、有田市社会福祉協議会等との連携により、高齢者を対象にスマートフォンの日常的な使い方を楽しみながら知ってもらう「スマホ講座」の運営に複数回協力するとともに、11月29日(土)に有田市民会館にて開催された、有田市内で防災教育に取り組むマモッチャクラブとの連携による防災イベント「あそぼう祭」の企画運営に取り組んだ。あそぼう祭では、マモッチャクラブの防災士の方々とのオンラインミーティング等の準備を重ね、当日は防災グッズの展示や、ペットボトルランプ作り、非常食の試食体験の企画運営に取り組んだ。今年度から初めて有田市に関わる学生もおり、地域の関係者やさまざまな世代の住民と交流することで、防災に対する知識を深めるだけでなく、有田市の現状や地域住民の思いを知る貴重な機会にもなった。

#### 3. 活動を通じて

今年度は2回生5名が活動に参加した。社会福祉協議会や「まもっちゃんクラブ」の関係者と連携して複数の企画を実践することができ、イベントの参加者からも好評を得るとともに、学生たちが参加者から防災に関する知識を教えてもらう機会にもなったようである。来年度は防災イベント等に関する企画準備を早い段階から開始し、地域側とのより密なコミュニケーションを図りながら、活動が発展することを期待したい。

#### 4. 成果ポスター

# 有田箕島LPP

メンバー:橋本(怜)・橋本(幸)・雑賀・福林・野口

## 和歌山県 有田市 箕島とは？

有田市は和歌山県の北西部に位置し、人口約2.4万人の街です。450年もの歴史を持つ有田みかんの産地であるほか、タチウオの漁獲量日本一を誇るなど、水産業も盛んです。また、蚊取り線香発祥の地としての歴史も持ち、自然・産業・文化が調和した魅力があふれます。

## あそぼう祭

11/29、有田市のマモツチャクラブさんと2回目となる防災イベントを開催しました。「防災を楽しく学ぶ」をテーマに、停電時に役立つペットボトルランプ作りや非常食の試食を実施しました。初参加の方も多く、活動の広がりを実感しました。アンケートでも防災意識の高まりが見られ、継続的な活動の大切さを改めて再確認する貴重な機会となりました。

## 今年度の振り返り

スマホ講座やあそぼうさいを通して、地域の方とお話する機会が多く、地域に対しての思いを直接聞くことができました。また、事前打ち合わせやミーティングを頻繁に行ったため、メンバー間や地域の人と方向性を何度も確認でき、充実した活動となりました。

## スマホ講座

昨年度に引き続き、箕島地区に住む高齢者を対象としたスマホ講座を実施しました。本講座は高齢者が学生とともにスマートフォンの使い方を楽しみながら学び、日常生活において有意義に活用してもらうことを目的としました。

また、高齢者同士や高齢者と若者との交流の場ともなり、明るい街づくりにも貢献できました。今年度も好評の声をいただきました。

## 和歌山県有田郡広川町

### 和歌山県広川町の地場農産物を活用した新商品の開発



#### 【活動の基本情報】

参加学生数: 7 名

(1 年生: 3 名、2 年生: 2 名、3 年生: 2 名)

活動期間: 2024 年 5 月～2026 年 1 月

担当教員: 佐々木啓

#### 1. 活動実施の経緯

2024 年度開設 Lゼミとして広川町から申請があり、今年度は活動 2 年目(最終年度)であった。

「稲むらの火」で世界的に知られる紀中・広川町。しかし、現状、特産物としては有田みかん以外に目立ったものがなく、地域振興のために特産物の開発が望まれている。そんな中、広川町の新たな特産物にしようとして小麦を栽培する農家が現れはじめており、この小麦を軸として、新商品の開発を行った。

昨年度の成果としては、「商品開発の案(はっさくを使用したスコーン、つゆあかねのジャム)」が完成していることが挙げられる。この案をベースに実際に商品の試作を行い、町内で開催されるマルシェなどでの販売を目指すというのが一つの目標となっていた。

#### 2. 活動の内容

- ・マーケティング関係の書籍の読み込み
- ・商品の試作
- ・現地見学

#### 3. 活動を通じて

残念ながら商品を実際に販売するというところにまで到達することはできなかった。昨年度に引き続き 3 年生がリーダーを務めたが、昨今の就活の状況からすれば 3 年生が、実質的な選考の一形態となっているインターン等と並行してリーダーを務めるというのは困難なことであったと考えられる。それゆえ、目標を達成できなかったのはやむを得ない部分もあったが、LPP のシステムとして 1～2 年生が中心かつ主体的な役割を担うという位置づけにしていくことが必要と考えられた。本プログラムは 2 年間の活動期間を満了するが、次年度以降に向けた新たな動き・提案も学生からなされていることから、今後の発展に期待したい。

## 4. 成果ポスター

# 広川町LPP

【3年】大和海、井上華、【2年】森心優、菅田愛理  
【1年】有賀史洋、大石善太郎、三代類

### 概要

広川町は稲村の火といった防災の話が有名な地域であり、西広海岸というビーチでは夏に多くの家族連れが訪れている。広川町LPPは2024年度に発足し、小麦を栽培している農家さんと一緒に小麦粉を利用した特産物の作成を目的に活動を行ってきた。2025年度には、3回生2人、2回生2人、1回生3人の計7人で活動をしている。

### 宿泊研修



9月に広川町に現地調査に向かった。そこで町内の人とスコーンを試作し、町内の人々の意見を基にレシピの変更改善を行った。1回生にとっては初めての広川町であったため、観光名所の巡回や道の駅などでの食事で広川町について知ってもらうことができた。

### 試作

去年調べた先行研究をもとに、5～6月にかけて商品案を構想し、小麦を使った商品としてスコーンを製作することに決定した。また、スコーンを作る際のレシピなどをネットで見つけ7～9月にかけて学生同士でスコーンの試作を行った。スコーンに合う味や地元産の果物であるつゆあかねを使用したジャムと合わせるなど工夫を行い、ただ小麦を使った商品を作るのではなく、広川町の特産品を感じてもらえるような商品の試作を行った。



### 2025年度の振り返り

今年度は、昨年度の先行研究をもとに商品開発を行い、試作の段階に持っていくことができた。

試作した際に材料の配合を変えることで味や食感の印象を調整できることが分かり、目的に応じた材料配分の重要性や難しさを実感した。それぞれの味に合った配分を考えると、宿泊研修でお会いした町内の方から好印象を得ることができた。

しかし、広川町のマルシェで実際に販売する機会がなく、幅広い世代からのリフレクションを得ることはできなかった。そのため、既存の店へのレシピ委託の検討や機会があればマルシェで実際に販売していきたいと考える。

今後は、特産品をアピールしつつ、地域内でのつながりを維持する取り組みをしていきたい。



## 和歌山県日高郡美浜町

### 美浜町の魅力発信と観光誘客



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:15名

(1年生:12名、2年生:3名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:木川剛志

#### 1. 活動実施の経緯

和歌山県日高郡に位置する美浜町は、和歌山県で2番目に面積の小さい町でありながら、煙樹ヶ浜の松林やカナダ移民を多数輩出した三尾地区のアメリカ村など、自然や歴史の豊かな町である。

前年度までのLPPでは、カナダ移民の歴史に着目しながら、美浜町内の観光スポットを巡るサイクリングマップを作成し、さらに町政施行100周年のイベントに参加するなど、美浜町内での活動を主に行ってきた。しかし、美浜町の持つ魅力を広く県外に伝える活動はできていなかった。そのため今年度の活動では、今までの様々な取り組みによって磨かれてきた美浜町の観光コンテンツをPRし、誘客に繋げることを目的として活動を開始した。

#### 2. 活動の内容

美浜町の魅力をPRする手段として、Instagramでの広報活動を行うことを決定し、PR内容の策定を行った。今年度初めてLPPに参加する学生が多かったため、まずは美浜町の魅力を知るべく各自で調べ学習を行い、会議で案を出し合う形で投稿内容の決定、計画を行った。そして7月と11月に現地を訪問し、投稿の素材となる動画や写真の収集を行った。アクティビティなどを通じて学生が実際に町の雰囲気を感じ、地元住民の方々と交流することで、調べ学習だけでは気付くことのなかった魅力に気付くことができた。その後、集めた素材をもとにリール動画の作成を行い、Instagramにアップした。1月末までに計15本の動画を投稿し、さらに数本の動画と写真投稿を行う予定である。また、1月には1年間の活動報告をかねた交流イベントを現地で実施し、美浜町に関するクイズや工作、メッセージラリーを通して、改めて美浜町の魅力を再認識する機会となった。

#### 3. 活動を通じて

美浜町の持つ観光資源や魅力を発見すると同時に、それが県外に知られていない現状と、伝える難しさを痛感した。SNSで情報発信を行うだけでは十分に魅力が広まらず、実際に現地に足を運んでもらうための工夫が必要である。

来年度以降は今年度の活動を継続するとともに、さらに多くのプラットフォームでの情報発信や、異なる視点での活動を行っていきたいと考える。

#### 4. 成果ポスター

# 2025年度 美浜町LPP



### 美浜町とは

和歌山県日高郡に位置する、県内で2番目に小さい町である。全長4.5kmに及ぶ白砂青松100選にも選ばれた煙樹ヶ浜の松林や、明治時代から昭和にかけて多くのカナダ移民を輩出したアメリカ村など、自然や歴史の豊かな町である。

### 主な活動

7月と11月に現地を訪問し、美浜町の魅力を学びながら、PR動画のもととなる素材を撮影した。  
訪問前にメンバーそれぞれが美浜町について調べた内容と集めた素材をもとに動画を作成し、SNSにアップした。  
また1月には現地でイベントを開催し、地元の方と交流しながら活動を報告した。



### PR動画・SNS運用



現地でメンバー自らが集めた素材を用いて、PR動画の作成を行った。観光スポットやアクティビティ、飲食店などのジャンル別に班を作り、様々な種類の動画を作成できるよう意識した。

またSNS運用は日程の管理が難しく、当初の予定通りとは行かなかったが、LPPのアカウントで投稿すると同時にメンバーがそれぞれのアカウントで拡散するなど、より多くの人に見てもらえるよう工夫した。

### 地域交流イベントの開催

LPPの活動を町の方に知ってもらおうという目的で、イベントの開催を企画した。小学生を対象にクイズ大会やワークショップを開催し、保護者向けに今までの活動をまとめた動画を見ていただくことへ決定した。広報が難しく、当日は2名の参加であったが、楽しんでもらうことができた。企画、準備、広報などイベント開催までの一連の流れを経験することができ有意義な経験となった。



↑美浜町の魅力をまとめたメッセージツリー



### 振り返り

今年度の美浜町LPPは、1年生12名、2年生3名という構成で若干の不安があったが、メンバーそれぞれが役割を分担し、協力することで最後まで活動することができた。

また計3回の現地訪問を通して美浜町の魅力を肌で感じ、さらに動画を作成することでより深く学ぶことができた点は非常に大きいと感じている。

美浜町LPP インスタグラム：@mihama\_w



## 和歌山県西牟婁郡上富田町

# 旅する蝶を見に行こう！学生力と地域力で創造する 地域交流コンテンツの開発



### 【活動の基本情報】

参加学生数:5名

(1年生:2名、2年生:2名、3年生:1名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:大浦由美

### 1. 活動実施の経緯

上富田町の魅力発信および地域内外の交流促進を目的とする任意団体「Daruma CLUB」は、2018年より「アサギマダラ祭り」を継続して実施している。同イベントは秋の恒例行事として地域に定着しつつあるが、さらなる交流人口の拡大と地域活性化の実現には、従来の発想に捉われない新たな視点、とりわけ若者層の主体的な参画が必要不可欠であるとの認識に至った。

そこで本プログラムでは、大学生が企画・運営のプロセスに深く関与し、地域住民との交流を通じて「イベント交流人口の拡大」や「若者の地域活動参画」を促進するコンテンツの創出・洗練を図る。あわせて、認知度向上に資する広報戦略を検討する。

### 2. 活動の内容

今年度は、特に上富田町の地域課題やアサギマダラ祭りについて理解を深めることを目的とする活動を重点的に実施した。主な活動は以下の通りである。

①Daruma CLUB との交流と現地視察、②Daruma CLUB 等による現地情報発信(SNS)の現状分析、③アサギマダラ祭りへの参加(グッズ販売の補助や来場者、出店者へのアンケート調査)、④ワークショップの実施と祭りに関するまとめの共有、⑤熊野高校生との交流会(上富田町の今後の発展に向けて私達ができることについて意見交換)次年度はこれらの活動で得た学びを踏まえ、活動に取り組んでいきたい。

### 3. 活動を通じて

学生は現地活動を通じて上富田町の方々との交流を深めるとともに、学生同士の結束力も高めることができた。また、アサギマダラ祭りへの参加や地元の高校生との交流を通して、座学だけでは学ぶことのできない地域の活動を実際に知る良い機会になったと考えている。特にワークショップを通じて地域への理解がより深まったので、次年度はこの経験を活かしてより主体的に活動し、新たなコンテンツの開発・実施および検証を通じて今後の方策を提案していきたいと考えている。

## 4. 成果ポスター

# 上富田町LPP

～旅する蝶を見に行こう！学生力と地域力で創造する地域交流コンテンツの開発～

玉木颯良 岡本良太 森知桃彩 西村日向 森田真凜

## 概要

和歌山県の南西部に位置する。世界遺産に指定されている八神神社や、日本一白いだるま座像で知られる興禅寺などが、主な観光名所として挙げられる。興禅寺周辺では、旅するチョウとして知られるアサギマダラが飛来することでも有名である。また、夏には富田川友遊フェスティバル、冬には紀州口熊野マラソンといったイベントが開催され、年間を通して楽しめる点も魅力の一つである。

## アサギマダラ祭り

昨年10月26日、上富田町のアサギマダラの丘で開催されたアサギマダラ祭りに参加し、Tシャツ販売の手伝いとアンケートを行った。雨天にもかかわらず、5月の現地訪問で植栽したフジバカマに数十頭のアサギマダラが飛来している様子が見られた。約20の出店の中にはスイーツからおかず系の豊富なグルメやクラフトができるお店がそろっていた。また、和歌山県鹿島高校で地域資源を活用した商品開発に取り組んでいる神島屋の焼き鳥等の出店やアーティストによる音楽ライブが開催され、大勢の人でにぎわった。イベントを通して、上富田町を盛り上げるために活動しているDaruma CLUBの方々を含め地域の方々との交流を深める機会となった。



## ワークショップ

上富田町のイベントに参加した際に感じたことを可視化することを目的に行った。上富田町の良さや改善点はどこにあるのかをメンバー全員で共有し合い、意見交流をした。この取り組みを行うことで上富田町の観光資源に一つの物語性があることに気づき、地域の人々の温かみがあるからこそアサギマダラ祭りが開催できていることやイベントに参加したいと思ってくれる人が多くいるということが分かった。更に熊野高校生、役場の方、Daruma CLUBの方々と一緒に交流会を行った際には改善点や新たな観光資源の可能性も発見することができたので次年度はその点を踏まえて取り組んでいきたい。

## 振り返り

上富田町LPPは10月に開催されるアサギマダラ祭りを目標にこれまで活動してきた。5月には現地を訪問し、親交を深めた。祭りの前日から上富田町を訪問し、当日には運営の手伝いやアンケート調査を実施した。11月の交流会では地域の方や高校生と幅広く意見交換をし町の今後について話し合った。その他、Daruma CLUBのインスタグラムへのアドレスや祭りの改善点の提案などを行った。



上富田町マスコットキャラクター「むようたんせんばい」

## 展望

- ①SNSでの情報発信  
大学生の視点を活かしアサギマダラや地域の魅力を発信する。
- ②アサギマダラ祭りへの関わり  
学生が関わることができる範囲で祭りの発展に貢献する。
- ③地域との関係づくり  
地域の方々とのコミュニケーションを大切に、継続的な関わりを築いていく。
- ④ストーリーの発信  
アサギマダラに関する情報や魅力を動画として発信し、多くの人の理解や関心につなげる。

## 和歌山県西牟婁郡すさみ町

### コモンの再生 First Step『過疎地の芸術祭を通して、新たな観光の意味を見出そう！』

#### ～すさみアートキャンプ 2025 における試行と実践～



#### 【活動の基本情報】

参加学生数: 3 名

(1 年生: 3 名)

活動期間: 2025 年 6 月～

担当教員: 堀田祐三子

#### 1. 活動実施の経緯

人口 3,500 人で高齢化率 5 割、2,000 世帯中 500 件が空き家、コンビニさえ街の中心にない和歌山県すさみ町。「課題先進地は日本の先進地」と捉え、さまざまな地域の未来づくりに取り組んでいます。その一つとして、旧町立病院をリノベーションして町民が集えるコミュニティ拠点へと生まれ変わらせるプロジェクトを進めています。ハードの再生／ソフトの企画を考え、地域デザインを実装していきます。

#### 2. 活動の内容

初年度は、2025 年秋開催の「地域の芸術祭(すさみアートキャンプ 2025)」を地域内外の人びととともにプロデュースし、地域の芸術祭のあり方を実践的に探究するとともに、イベント運営やアート作品作成等を行いました。

#### 3. 活動を通じて

地域を知り、地域の方の話に耳を傾け、彼女たちなりにアートとは何かを考え、実践した貴重な体験であった。具体的には、すさみ弁を素材として、イラスト作成やカードゲームの作成、ワークショップの企画運営を行った。その他、すさみアートキャンプの企画運営の場に参加し、イベント運営の裏側を垣間見ることができた。

すさみ町の地域住民と町外からの来訪者との接点をつくり、地域の諸活動に巻き込んでいくことの面白みと苦勞、課題等を体験的に学修することができた。1 年目の経験としての、ものづくり(アート)が媒介する人と人とのコミュニケーション、来訪者のすさみへのまなざし、来訪者をもてなす地域住民のホスピタリティと地域愛、地域課題への取組の困難さを、次年度の活動に活かし、より質の高い学修となることを期待している。

最後に、すさみキャンパスおよび町の方々の大きなサポートによって成立しているプログラムであり、学びの地域還元についても、引き続き検討していく。

## 4. 成果ポスター

### 和歌山大学観光学部 すさみ町LPP

『過疎地の芸術祭を通して、  
新たな観光の意味を見出そう！』

T2510008 生駒咲樹  
T2510077 西田あいり  
T2510095 松尾優実



#### 【概要】

人口3,500人、高齢化率5割、2,000世帯中500件が空き家、コンビニさえ街の中心にないすさみ町。私たちはすさみ町の旧町立病院をリノベーションし、町民が集えるコミュニティ拠点へと生まれ変わらせるプロジェクトを進めています。2025年秋に開催された地域の芸術祭「すさみアートキャンプ2025」を地域内外の方とともにプロデュースし、地域の芸術祭のあり方や、「祝祭性」について実践的に探究しました。地域の暮らしや想いと都市住民の地域への期待とニーズを掛け合わせ、「居場所づくり」と「観光のあり方」を2年間かけて模索しています。

#### 【すさみアートキャンプについて】

「すさみアートキャンプ」は二年に一度すさみ町で開催される芸術祭（ピエンナーレ）です。2025年度は11月14日から16日にかけて開催され、すさみ町内だけでなく、全国から集まった参加者が、出展者や運営関係者として関わることができます。私たちは作品展示とワークショップを実施しました。また、他の出展者による企画（絵画制作、紙ひこうき作り等）への参加や、参加者同士で食卓を囲み、関係性を育む「おなか食堂」での交流を通じ、地域内外の関係性を育むことができました。すさみ町の豊かな自然環境を堪能しながら文化的な体験ができる有意義なイベントであると体感した一方で、地域住民への認知度がまだ低いという課題も見えてきました。より親しまれる形を、今後自分たちでも検討していきたいです。



#### 【実施内容】

11月に開催された「すさみアートキャンプ2025」に向け、作品制作を中心に活動しました。私たちは「すさみの方言」に着目し、方言を楽しめるポスター46種類と、神経衰弱カードゲームを作成しました。メンバー3人でそれぞれの得意分野を活かして役割を分担し、効率的に制作を進めることができました。さらに、イベント当日に向けて、制作した作品を用いたワークショップを企画しました。告知用のチラシも準備し、すさみ町役場や公民館、小学校を巡り、地域の方へ直接案内を行いました。当日は、「方言」が橋渡しとなって地域内外の交流が生まれ、旧町立病院の現在を知ってもらいきっかけにもなりました。参加者や地域の方々との対話を通して、企画段階で知り得なかった「すさみキャンパス」訪問者の生の声や、私たちの活動に対する感想をいただくことができ、次年度の活動に向けた貴重な学びとなりました。

#### 【今後について】

次年度は、今年度のイベントで出会った地域の方々との交流を続け、旧町立病院をさらに活用していただくために、「バージョンアップ&発信」に力を入れます。また、地域の行事に参加したり、子どもたちとの交流の場を生み出したりすることで、地域との関係性をより高め、活動の幅を広げていきたいです。

## 和歌山県新宮市

### 新宮市を訪れる観光客のニーズ調査・分析及び

### コンテンツ発掘・発信



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:8名

(1年生:2名、2年生:5名、3年生:1名)

活動期間:2024年5月~2025年12月

担当教員:出口竜也

#### 1. 活動実施の経緯

本活動は、2024年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年の節目の年を迎え、2025年は大阪・関西万博が開催されるなど、新宮市においても国内外からの観光客の増加が見込まれることから、魅力的な映像コンテンツを作成し、発信することを目的に、2カ年計画で始まり、2025年度は2年目にあたるものである。

#### 2. 活動の内容

新宮市商工観光課の担当の方を交えたオンラインミーティングを定期的に重ね、1泊2日の新宮市における現地調査を9月と12月に実施することで、地域資源の発掘、撮影、地域の関係者との意見交換などを行った。現地調査終了後は映像コンテンツの編集とInstagramのアカウント作成を行い、順次投稿するとともにフォロワー獲得のための活動を行った。

#### 3. 活動を通じて

2025年度は8名の学生のうち6名が2024年度に引き続いての参加だったことや、新規に参加した2名の1年生の能力が高く、意欲的な取り組みも見せたことから、高いレベルでの活動が実現した。8月のニーズ調査の実施の際に不穏な空気が流れた時期もあったが、チームワークで困難を克服し、多様な地域出身の学生チームならではの観点で新宮市の魅力を存分に盛り込んだ16本の動画を完成させ、アカウントごと新宮市に託すことができたことで、2か年にわたる活動で課された目的は十分に達成できたと評価している。

## 4. 成果ポスター

# 新宮市LPP

山口朔人 井上紗菜 芝芽衣 服部天音 松田彩花 森川翔貴 橋本吳征 鰐淵弘

## 新宮市の概要

人口25,311人（2025年11月現在）面積255.23km<sup>2</sup>  
和歌山県の南東部に位置しており、JR和歌山駅から特急くろしおで約3時間で行くことができます。市内には、熊野速玉大社をはじめとする世界遺産が街の至る所にあります。**歴史、文化、自然、食**のすべてが楽しめる穏やかな雰囲気のある街です。



## 常時活動

### 【ミーティング】

参加学生のみミーティングに加え、担当教授や新宮市担当者が参加する全体ミーティングを定期的に行い、2度の現地活動に関する各種調整や随時更新するInstagram、最終的に作成する動画について話し合いを重ねました。特に、Instagramの投稿に関しては、投稿する動画の長さ、タイミングの分析やテーマ別の投稿などを行い、**より多くの人に知ってもらおう工夫**をしました。

### 【現地活動前後】

現地活動前は、メンバーを目的別で3つの班に分け、現地活動する際の行程やどんな素材を集めるかについて各班の会議を行いました。現地活動後は、各自が担当する動画の作成や、Instagramへの投稿で**新宮市の魅力を発信**しました。

### 【アンケート調査】

2025年度は、8月10日(日)に大阪市の新世界地区でアンケート調査を実施しました。日本人観光客だけでなく、外国人観光客にもアンケートに答えてもらい、様々な視点からの意見を集めることができました。アンケート回答者には、新宮市のパンフレットや缶バッジなどのノベルティグッズを配布し、**新宮市の魅力をPR**しました。

## 現地活動

### 【現地活動①】2025年9月12日～13日

ミーティングや調査をもとに、新宮市へ観光に訪れる人々は**何を求めて訪れるのか**を考え、それをもとにテーマを決めて活動しました。訪問した施設でインタビューを実施し、新宮市の**魅力を広めるためのヒントを得ながら**、自分たちがどのような活動を行っているのかを現地の方との交流やInstagramのQRコードがのったチラシを配布することで知ってもらい、より多くの人に広める活動も行いました。また、活動後の動画制作を見据え、訪問先の魅力を具体的に伝えられるように考えながら映像や写真の撮影を行いました。

### 【現地活動②】2025年12月6日～7日

2回目の現地活動ではより「**観光客の目線**」を意識しながら活動しました。実際のSNS上で利用者がどのような情報を求めているのかを精査し、各班に分かれて活動を行いました。前回周りきれなかった場所を訪れたり、雨天で実施できなかったサイクリングを行ったりすることで、**より広い視点で新宮市の魅力を捉える**ことができました。また、自分たちが考えた市街地観光ルートを周り、既存コースとの比較検討も行いました。そして、1回目と同様に地域の人に活動内容を広げました。



湍峡めぐり



王子ヶ浜



神倉神社

## 活動まとめ

新宮市LPPでは、2年間にわたって様々な活動を行ってきました。1年目は、主に「**新宮を知る**」ことをメインに、2年目はステップアップを行い、私たちの力でどのように「**新宮市に貢献**」できるかを考え続けました。

### 【常時活動】

ミーティングを通して、議題を話し合うだけでなく、書記やタイムキーパー、司会進行の役割を回すことでメンバー全員が主体的に活動しました。また、LPP内を班で分け、その中でリーダーや役割を決めることにより、個々がより深く活動に携わりました。このような活動から、**課題を見つけ、チームで議論を行い、解決する力**が身につきました。

### 【SNS活動】

主にInstagramを活用し、様々な投稿を行いました。フォロワーを増やすためにチラシを作成し、アンケート調査や現地活動の際に配布し、フォロワーを獲得しました。また、投稿する動画の長さやタイミングの分析、個々の宣伝を通して、より多くの人に新宮市の魅力を伝える工夫をしました。このような活動から、SNSの分析力やSNSにマッチした投稿の素材を探すなど**SNSへの対応力**が身につきました。

### 【現地活動】

1年目は、現地を知るところから始まり、新宮の魅力を体感しました。2年目は、現地を知るところから、魅力の伝達に注力し、地域内でのInstagramアカウントの宣伝やお店の人との交流など幅広い活動ができました。4回の訪問を通して、サイクリングや公共交通機関のみでの観光、世界遺産巡りなど様々なテーマで新宮市を知ることができました。また、現地活動を通して、地域の人と関わることやチームで動くことで得られる**コミュニケーション能力**の向上や、座学で学んだことの実践など、**多様な経験**を積み、成長することができました。

このように2年間を通して、チームとして、個人として様々な活動に取り組みました。2025年度で活動は終了しますが、新宮市LPPに関わってくれた方々に深く感謝申し上げます。

2025年度 和歌山大学観光学部LPP合同報告会

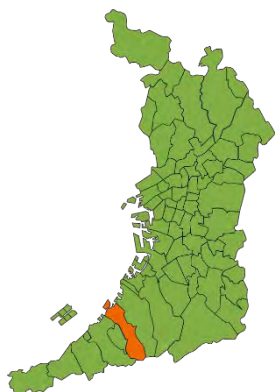
新宮LPPの活動の様子はこちらから



@SHINGU\_LPP

## 大阪府貝塚市

### 貝塚再発見！学生がつなぐ観光の可能性



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:18名

(1年生:12名、2年生:2名、3年生:4名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:竹林明

#### 1. 活動実施の経緯

本 LPP は、学生ならではの視点で貝塚市をプロモーションすることを目的に始められた。貝塚市には魅力的な観光資源が多くあるものの、その魅力を効果的に発信すること、特に若年層へのアピール不足や地域住民との交流機会の創出を課題としていた。学生自身が貝塚市を体験しながら、各種イベントで地元スタッフと交流しながら、若者ならではの視点での魅力発信が期待された。

#### 2. 活動の内容

「まち歩き」とイベントへの参加を行い、それらを基にした Instagram による情報発信(アカウント:kaizuka\_city\_lpp)を行った。まち歩きは、山手班・まちなか班・浜手班に分かれ、7月12・13日、12月6・7日の2回実施し、それを基にした Instagram を作成した。

イベント参加は以下の通りである。イベント後には Instagram を作成した。

- ・8月29日大阪万博催事「貝塚市ええとこ・うまいもん・おもてなしフェスティバル」
- ・9月19～29日「水の芸術祭」
- ・10月26日「MOANI2025-KAIZUKA」
- ・11月30日「農業祭×ふれあい市」
- ・12月14日「泉大津 PA ウィンターフェスティバル」

それぞれのイベントにスタッフ補助として参加・活動した。例えば、農業祭では抽選券の配布、万博イベントでは来場者へ貝塚市の名所の紹介や貝塚市の公式キャラクター「つげさん」の着ぐるみの中に入り、地域の人と交流するなどを行った。

#### 3. 活動を通じて

約1年の活動を通して貝塚市を深く知ることができた。まち歩きでは、市役所はじめ関係各位の協力により、見逃していた貝塚市の観光資源を認識できた。イベントでは万博イベントは特に規模が大きく、イベント成功のためのチームワーク形成を意識する機会を得た。来年度以降は継続的な情報発信に加え、より効果的なプロモーションを行う方法を探っていきたい。

#### 4. 成果ポスター

# 2025年貝塚市LPP

## 貝塚市とは

貝塚市は大阪府の泉南地域に位置し、二色浜をはじめとした、自然や、水間寺などの寺院も有する歴史的建造物が調和した街です。貝塚市には多様な観光資源が存在する一方で、その認知度の低さや若者向けプロモーションの不足が課題となっています。貝塚市LPPでは、活動を通して地域への理解を深め、貝塚市の魅力を再発掘し、発信する取り組みを行っています。



## まちあるき

街歩きは山手班、まちなか班、浜辺班の3つに分かれて行いました。各班が水間寺や願泉寺、脇浜戎大社などの歴史的な場所や博物館、二色浜、そして素敵なカフェなどに訪れました。実際に行き見てみるだけでなく、地元の方やお店の方との交流を通して貝塚の魅力を再発見し、多くの人に知ってもらうためInstagramでの投稿を行いました。

## 農業祭

11月30日に第76回「農業祭×ふれあい市」が貝塚市役所前で開催されました。地元の農家の方が育てた新鮮な野菜や特産物の販売、ステージ企画などが行われ、多くの人で賑わいました。農業者の方と直接交流することで農業への理解が深まる機会になりました。

## 大阪・関西万博

8月29日に「大阪・関西万博」内のフェスティバルステーションにて、「貝塚ええとこ・うまいもん・おもてなしフェスティバル」に参加させていただきました。私たちは各出店ブースにて、地域の方と協力し、貝塚を代表する特産品や名所などの観光的魅力を来場客に発信しました。ブース内での発信だけでなく、貝塚市の公式キャラクター「つげさん」のステージ登壇を補助したり、貝塚市ボランティアガイドの皆さまのプレゼンテーションを担うなど、各自が積極的に行動しました。その結果、地域の方から厚い信頼と感謝の言葉をいただくことができ、大変、貴重な経験となりました。

## 水の芸術祭

9月19日から9月23日に、水間門前町で開催された「水の芸術祭」に参加しました。このイベントでは、水間門前町に「水」をテーマにした多様なアートが集まりました。来場者の方々は水間門前町の風景とアートの融合を楽しみ、写真を撮ったり、水間寺周辺を散策したりしていました。私たちは主に、ガチャガチャイベントのお手伝いや、イベントの様子をInstagramに投稿するPR活動を行いました。アーティストの方々や地域の方々との関わりを通じて、イベント運営は、多くの人が協力して行うことで成り立っているのだということを実感しました。

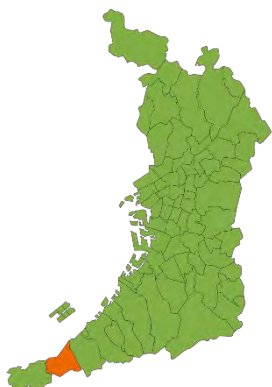
その他、MOANI2025、ウィンターフェスティバルにも参加させていただきました。

## おわりに

今年度は複数のイベントに参加し、貝塚市の地域活動に関わりました。これらの経験を通して、LPPとして地域の魅力を発信する意義を再認識しました。今年度はイベントの補助や街歩きなど理解を深める段階での活動が中心であったため、来年度は継続的な魅力発信に加え、より具体的な形で貝塚市に貢献する活動を目指していきます。

# 大阪府阪南市

## 阪南市の観光振興と魅力発信



### 【活動の基本情報】

参加学生数:9名(1年生:5名、2年生:3名、3年生:1名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:佐々木壮太郎

### 1. 活動実施の経緯

阪南市での活動は2018年度から続けており、一昨年度の活動より「阪南市の産業振興と魅力発信」をテーマとしている。阪南市では、豊富な食材と観光資源を有しているものの認知度の低さから来訪者が少ないという課題認識をもっており、阪南美食ブランド「KUU 食う」を中心に「阪南といえば豊かな自然に育まれた食材があり、それらを使い伝統的な技で生み出された泉州を代表する食品」というイメージの醸成を目指している。活かしきれていない観光資源やスポットを、学生の視点でInstagram等を用いながら内外にアピールするという趣旨での活動となる。

### 2. 活動の内容

学生視点で阪南市の魅力を掘り起こし、その魅力を多くの人に発信する活動を行なった。

- ① 受入側を交えてのミーティング、学生同士のミーティング
- ② 阪南市の魅力を知るためのまち歩き、動画撮影
- ③ 匠のippinの見学
- ④ 水茄子の試食会
- ⑤ 月化粧ファクトリーの見学
- ⑥ やぐらパレードへの参加、動画撮影
- ⑦ 海ほたる鑑賞会への参加
- ⑧ 牡蠣フェスへの参加、参加者アンケートの手伝い
- ⑨ リール動画を中心としたInstagramでの情報発信、等

### 3. 活動を通じて

これまで培ってきた現地での活動経験を活かし、イベント参加等の活動機会を充実させることができた。今年度は阪南市での活動が2年目・3年目となる学生もおり、それぞれ役割を分担し、本プログラムで本格的に取り組んでいるInstagramを用いてのPR活動、そしてそのための動画編集など、蓄積されてきた各種ノウハウを活かす取組にも挑戦することができた。情報発信については、12月から本格化した投稿で20,000回を超える閲覧数を獲得するなど、目に見える成果をあげることもできた。なかなか目標を達成できない部分があったとしても、きちんと振り返りをするなど、実践的活動からしか得ることができない多くの貴重な経験を積み重ねることが重要である。これらの経験から学んだ知見や気づきを、座学での学修などにもきちんとフィードバックし、今後の学生生活に活かしてほしい。

## 4. 成果ポスター

# 阪南市LPP 2025年度活動報告



中山穂香、嶋野莉子、廣瀬碧、三澤琴未、辻本菜葉、戸田風咲、中野優希、中山扇寿、福本七月

### ○阪南市の概要・活動目的

阪南市は大阪府の最南端に位置し、海と山に囲まれた自然豊かなまちで、関西国際空港からのアクセスも良いのが特長です。やぐら祭りや漁港の風景、海辺の散策路など、日常の中に“地域らしさ”を感じられる観光資源が点在しています。大都市近郊でありながら、暮らしと観光がゆるやかにつながるフィールドとして、体験型・交流型観光の可能性を秘めた地域です。

しかしながら、それらの良さを地域内外に十分に発信できておらず、認知度の低さが課題となっています。また、日本各地の地方が抱える人口減少や少子高齢化、若年層の転出などの課題において、阪南市も例外ではありません。そこで私たちは、まちあるきイベントへの参加を通して地域の方と積極的にかかわるとともに、阪南市の魅力を掘り起こす活動を行いました。また、それらの活動をSNSを通して発信することで幅広い層に阪南市の魅力をPRし、認知度向上を目指しました。



### ○地域でのイベント

#### ・やぐらパレード

10月5日(日)に、阪南市が開催した「やぐらパレード」に参加させていただき、主に写真や動画撮影を行いました。各町から20基のやぐらが阪南市役所前に集結し、迫力満点の曳行と熱気あふれる雰囲気、阪南市を大きく盛り上げていました。わたしたちはやぐらの勇壮な動きや祭囃子を中心に撮影し、阪南市の秋祭りの魅力を記録しました。間近で見るやぐらの迫力と、地域の皆さんが一体となって作り上げるお祭りの力を強く感じる1日となりました。

#### ・牡蠣フェスティバル

1月10日(土)に(一社)阪南市観光協会が主催する牡蠣フェスに参加しました。そこでは参加者アンケートのお手伝いをさせていただきました。イベント中に、アンケートへの呼びかけをしたことで、実際に参加者の皆さんの声が聞けたり、反応を見ることができてとても良い機会になりました。多くの出店やステージ発表などで大盛り上がりの牡蠣フェスに参加して改めて阪南市の人々の温かさに触れることができました。



### ○まちあるき

阪南市の魅力を発信するため何度かまちあるきを実施しました。

#### ・匠のippin

商工会「匠のippin」で、阪南市の事業者が手がける特産品を見学しました。

#### ・水なす

グループで阪南市の特産品である水なすの試食会を行い、その味や魅力について理解を深めました。

#### ・月化粧ファクトリー

大阪のお土産の定番「みるく饅頭月化粧」の製造工程を無料で見学し、焼きたての試食も楽しめます！

#### ・せんなん里海公園

10月には海ほたる鑑賞会、1月には泉州阪南牡蠣フェスティバルや葛城修験スイーツフェスティバルに参加させて頂きました！阪南市の特産物について詳しく知ることができました。



### ○動画制作&SNS発信

Instagramに、まちあるきで訪れたスポットや学生の活動の様子を紹介する動画を投稿しました。阪南市の魅力を多くの人に伝えたいという思いを持ち、投稿ごとに役割を分担しながら、動画制作や文章の作成に取り組みました。特にリール動画に力を入れ、阪南市の様子を動画を通してお届けできるようになりました。



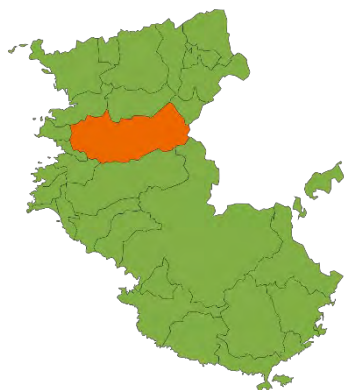
@HANNAN\_CITY\_LPP

### ○活動を振り返って

阪南市LPPの今年度の活動は、まち歩きで訪れた阪南市の魅力的なスポットやイベントの様子を、Instagramにてリール動画を中心に発信しました。12月から投稿を本格化させ、約1ヶ月半で本アカウントの閲覧数は20,000回を超えました。前年度に引き続き、今年度も活動できたのは阪南市の市役所の方々、事業者の方々、そして応援して下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

## 和歌山県有田郡有田川町

### 学生との協働による棚田保全・集落支援活動



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:4名

(2年生:1名、3年生:2名、4年生:1名)

活動期間:2011年7月～2026年1月

担当教員:大浦由美

#### 1. 活動実施の経緯

有田川町での第19回全国棚田サミット開催を機に、2010年に県が企画したツアーへ観光学部生約20名が参加した。高齢化と耕作放棄地の現状を目の当たりにした学生から「棚田保全ボランティア」の提案があり、「棚田ふあむ」が結成された。2011年7月の開始から今年で14年目を迎える。

#### 2. 活動の内容

例年通り、田植え(5月25日)、山椒収穫支援(7月19～21日)、稲刈り(9月28日)、草刈り(11月17日)等の農作業支援を中心に、秋祭り(10月11～12日)、桜の植樹(11月23日)、地元交流会(12月7日)、天神祭(1月24～25日)等の集落活動支援や交流事業を実施した。広報では活動報告誌「ふあむからあのね」作成に加え、Instagram発信を再開した。今年度は特に地域の文化資源である「郷土食」に着目し、地域の方と一緒に調理しながらレシピを記録・発信する等、発信内容の充実を図った。特筆すべきは、秋祭りや植樹にOBOGが多数参加したことである。地域住民との旧交を温めるだけでなく、現役生が活動の歴史を直接聞き、地域への想いを受け継ぐ貴重な世代間交流の機会となった。

#### 3. 活動を通じて

少人数ながら宿泊を伴う活動を重ねたことで、地域の方々との信頼関係は一層深まったのではないと思われる。郷土食レシピの記録や学内での収穫米の学生への配布と次年度に向けたPR等、新たな取組も始まっている。学生のレポートからは「地域の声に真摯に耳を傾けつつ、学生ならではの視点で提案を行う重要性」や「地域課題に安易な正解を求めず、関わり続けながら共に考える姿勢そのものが重要である」という深い学びが読み取れた。今後は学生がより主体的・意欲的に関与できるよう、挑戦しがいのある目標を設定し、新たな参加学生の確保とプロジェクトの活性化に注力したい。

## 4. 成果ポスター

# 有田川町沼地区LPP 棚田ふあむ

山あい広がる有田川町沼地区の棚田では、地域の方々と学生が協力しながら、棚田と集落を未来へつなぐ活動を続けています。

有田川町内でも有数の規模を誇る沼地区の棚田は、長年にわたり地域の暮らしを支えてきました。一方で、高齢化や人口減少により、その維持は年々難しくなっています。

私たちは棚田の一部をお借りし、田植えから稲刈り、精米までの稲作作業に継続して関わってきました。あわせて、地域行事への参加など、棚田を支える日常の営みにも取り組んでいます。

こうした活動を通して、棚田の景観を守るだけでなく、地域の方々との交流を重ねながら、沼地区に根付く暮らしや文化を次の世代へつなぐことを目指しています。



## 2025年度の活動

**5月** **田植え・交流会**  
地域に伝わる農作業着を着用し、田植えを行いました。昔の農作業や暮らしについて学ぶ機会となりました。

**7月** **山椒収穫支援**  
収穫は根気のある作業を体験しました。作業を通して、地域の方々と交流する機会となりました。

**9月** **稲刈り支援**  
5月に植えた稲の収穫作業を行いました。田植えから収穫までの流れを通して、米づくりの大変さを実感しました。

**10月** **秋祭り支援**  
一泊二日で秋祭りの準備や餅投げを行いました。祭り当日には、OBの方々と神輿を担がせていただきました。

**11月** **桜の植樹**  
今年度新たにOBの方々とともに、桜の植樹を行いました。地域の将来につながる新たな取り組みとなりました。

**12月** **交流会・お米の配布**  
活動を振り返り今後の沼地区について意見交換を行いました。後日大学内で棚田で収穫したお米の配布を行いました。

**1月** **天神祭支援**  
餅投げなどの天神祭の準備と開催の支援を行いました。その後は交流会を行いました。

### ●今年度の総括

今年度は、現地での活動に加え、活動内容や地域の魅力をどのように伝えていくかを意識した一年となりました。新たな取り組みとして、収穫したお米を配布し、アンケートを通じて感想や意見を収集する活動を実施しました。実際に食べてもらうことで棚田のお米への理解を深めるとともに、今後の活動を考える上での貴重な意見を得ることができました。また、郷土料理のレシピをInstagramで発信する取り組みも行い、地域の食文化や日々の暮らしの魅力を、これまでとは異なる形で発信できたことも、今年度の成果の一つであると考えています。

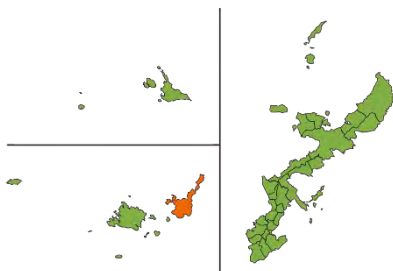
### ●来年度に向けて

来年度も、地域の方々の声に耳を傾けながら、棚田や集落の状況に寄り添った活動を継続していきたいと考えています。また、これまでの活動で得られたつながりや学びを大切にしながら、地域の魅力を伝える取り組みにも引き続き取り組んでいきます。

## 沖縄県石垣市

### 国立公園・石垣で学び、考える、

### 観光ビジネスによる地域活性化



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:5名

(1年生:4名、3年生:1名)

活動期間:2025年5月~2026年1月

担当教員:佐々木啓

#### 1. 活動実施の経緯

石垣島をはじめとする離島地域は日本全体がこれから直面する課題を先行し経験している。「離島は日本の縮図」と言われて久しいが、そのような離島であるからこそ地域振興について学ぶには非常に良いフィールドであると考えられる。そんな中、新規事業の開発や投資などを行う(株)GOBから、本学イノベーションイニシアティブ基幹を通じ、総務省事業「ふるさとミライカレッジ」への応募依頼があった。

石垣島で最も豊かな自然を有しているが、人口減少や少子高齢化が進んでいる同島北部を拠点とし、「観光×自然環境×地域活性」をテーマに学ぶというのが当初の計画であり、具体的には環境省のインタープリテーション計画や観光庁のDMO政策等を踏まえ、クリエイティブ・ツーリズムの観点を取り入れた新しい観光事業案について検討を行い、実践型の起業体験を通じた新規事業開発および地域課題解決型のビジネス創出について学び、アントレプレナーシップを養うというのがねらいであった。しかし、本学はじめ3大学等で共同申請したものの不採択となったため、(株)GOBの支援を受けつつ本学単独での活動を実施することとなった。

#### 2. 活動の内容

<事前学修> 観光ビジネスに関する書籍等の読み込み、現地研修のスケジュール検討など。

<現地研修> 2025年8月19日(火)~22日(金)の3泊4日の日程で沖縄県石垣市を訪問し、石垣市内各地の観光資源を見学するとともに、初日には石垣市役所観光文化課の職員の方々から石垣市の観光の現状と課題などについてお聞きし、学生からの質問にもご回答いただいた。

<事後学修> 日本政策金融公庫の創業計画書の内容に準じた創業計画の立案。

#### 3. 活動を通じて

残念ながら1月の合同報告会では創業計画が完成しなかったが、年度末までに完成させたいとのことだったので、最後までやりきることに期待したい。

## 4. 成果ポスター

自然豊かな石垣島で学び、考える、観光ビジネスによる地域活性化

# 石垣LPP

### 石垣島とは…

沖縄本島から約410km南西に位置する八重山諸島の島。島の南部は中心市街地や離島ターミナルのある賑やかなエリアです。一方で、北部は豊かな自然を有しながらも人口減少や少子高齢化が進んでいます。

### 石垣LPPについて

北部に新たな人の流れをつくるため、日本政策金融公庫の創業計画書に沿って新規事業開発と地域課題解決を組み合わせた事業案の立案に取り組んでいます。

## 〇現地フィールドワーク (8/19~8/22)



### 石垣市役所訪問

観光振興や地域活性化に関する現状や課題についてお話を伺いました。気候変動やオフシーズンが観光に与える影響、宿泊税導入やイベント開催などの具体的な取り組みについて理解を深めることができたほか、オーバーツーリズムや二次交通の課題など、石垣市が直面する現実的な問題について学ぶ機会となりました。

### 石垣島北部観光資源見学

・玉取崎展望台  
エメラルドグリーン的大海と緑豊かな自然が織りなす絶景スポット。展望台周辺には、ハイビスカスやブーゲンビリアなどの南国の花々が咲き誇り、訪れる人々を鮮やかに迎えてくれる石垣島の自然を強く感じられるスポットでした。

### アクティビティ体験

壮大な自然の中で、トレッキングやシーカヤック、グラスボートなど様々なアクティビティを体験しました。また体験中には、ガイドの方々に文化や動植物にまつわる知識を教えていただきました。

## 〇事業計画案

- ①事業内容 ②取扱商品の内容 ③セールスポイント  
④販売ターゲット・集客方法 ⑤自社を取り巻く状況

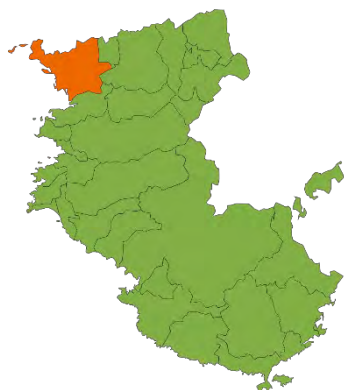
石垣島北部：宿泊施設が少なく、長時間滞在するには不向き  
北部には13~15軒の宿泊施設があり、その半数以上が一棟貸しの宿泊施設  
⇒宿泊施設にサウナを併設し、石垣島北部の豊かな自然の中でサウナを楽しむ



	一棟貸し	ゲストハウス
①	自然を満喫できる、プライベートを重視したサウナ付き宿泊施設	石垣島北部の自然の中でサウナと交流を軸に少人数の宿泊体験を提供
②	島野菜・八重山そばキット 北部でのアクティビティ付きプラン	個室宿泊、長期滞在向け連泊プラン、宿泊施設までの送迎
③	島の名物作りで文化に触れ、SUPやシーカヤック等のアクティビティで自然を体感	送迎や食事の時間を通じた自然な交流
④	サウナや体験型観光を目的とする2~6名の若年層。公式webサイトの創設	サウナ・自然・交流が目的、少人数SNS、口コミによる新規客の獲得
⑤	サウナ、料理キットを備え、他の一棟貸し宿泊施設との差別化を図る	北部の立地とサウナ 少人数交流という独自性を持つ

## 和歌山県和歌山市雑賀崎

### 雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:12名

(1年生:3名、2年生:3名、3年生:3名、4年生:3名)

活動期間:2024年4月～

担当教員:永瀬節治

#### 1. 活動実施の経緯

私たちは 2019 年度にコンテストのために発足した雑賀崎での活動、より実践的に行うため 2022 年度から LPP として活動している。昨年度は子供向けイベント、ロゲイニングを行い、また SNS で私たちの活動を発信し、雑賀崎の認知度向上に努めた。

雑賀崎の認知度向上に努めた。

#### 2. 活動の内容

今年度は、「雑賀崎と繋がろう～ここが私のサードプレイス～」を目標に掲げ、活動を行った。目標達成のために、雑賀崎の方をターゲットに二つのイベントを実施した。

一つ目は、10月18日にレモンの丘公園で行った交流会と流しそうめん会である。LPPのInstagramを通して積極的にイベントのPRを行い、また地域団体の方の協力も得たことで、約20名の雑賀崎住民の方に参加していただいた。

二つ目は、1月17日同所で行った運動会である。雑賀崎小学校と幼稚園にチラシを配布したこともあり、約10名の子どもが参加してくれた。高齢者の直接参加はなかったものの、「子どもたちの元気な姿を見て元気をもらった」という声を聞くことができた。

また、和歌山市の住民や出身者をつなぐコミュニケーションサービス「FAVOTOWN」と連携し、インスタグラムで雑賀崎 LPP の活動や観光名所の紹介も行った。

#### 3. 活動を通じて

本活動を通して、雑賀崎住民の方と直接関わる中で、地域の温かさやつながりの大切さを実感した。次年度は、より多くの住民が継続的に参加できる仕組みづくりを行い、雑賀崎を身近に感じられる活動を広げていきたい。

#### 4. 成果ポスター



# 和歌山市雑賀崎LPP

雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用



雑賀崎は和歌山市の南西部に位置する漁業が盛んな地域である。  
 雑賀崎LPPは2022年度より発足し、NPO法人である「さいかざきポッセ」や雑賀崎に住む方々のご協力のもと、これまで活動を行ってきた。2025年度は3回生3人、2回生3人、1回生3人で活動を行った。

### 【今年度の目標】

「雑賀崎とつながろう」～ここが私のサードスペース～

→「雑賀崎の人と交流したい」という意見を元に、雑賀崎の外でなく、中の人にフォーカスした活動を行った

### 【活動内容】

#### ①地域内でのイベント






【10月 流しそうめん】                      【1月 運動会】

イベントは全て雑賀崎小学校の跡地であり、地域の交流の場でもある「レモンの丘公園」で行った。

→地域のひととの交流機会を作るため、大人から子供まで楽しめるイベントを考え実行した。10月に流しそうめん、1月に運動会を開催し、子供たちを中心に多くの方に来て頂いた。目標だった地域のひとたちとの交流もでき、何よりイベントを楽しんで頂けていたように思う。ただ、進行の流れや、準備の段階での課題もいくつかあった。

#### ②FAVTOWNさんとの活動

色彩や配置に工夫しながら、雑賀崎内の魅力的な場所を紹介する投稿の制作を行った。Instagramでの共同投稿を元に、SNSでの広報のアドバイスも頂いた。





雑賀崎灯台                      番所庭園                      雑賀崎おすすめスポット

#### ③飲食店マップ



雑賀崎の飲食店を発信するためにマップ作成。各自で飲食店にインタビューを行い、開店の理由、雑賀崎の魅力、おすすめメニューなどを聞きこむ。

### 【今後の展望】

今年度は交流会や運動会を通して雑賀崎内のひと々と繋がることができ、雑賀崎の中に焦点を当てるという目標を達成できた。一方、当初の予定とずれることもあり事前準備の難しさを痛感した。来年度は現在進行中の飲食店マップの完成を目指し、より地域のひと々と交流して、雑賀崎、さらには私たち雑賀崎LPPの知名度の向上に向けて活動していきたい。

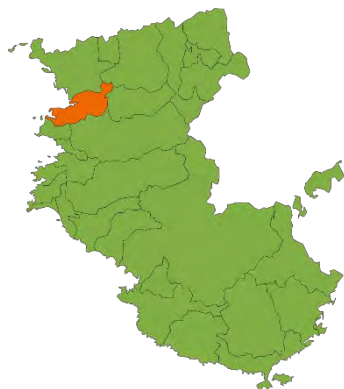



- 39 -

## 和歌山県海南市大崎

アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、

地域内外に伝える



### 【活動の基本情報】

参加学生数:7名

(1年生:4名、2年生:1名、3年生:2名)

活動期間:2025年5月～

担当教員:遠藤理一

### 1. 活動実施の経緯

大崎地区がより持続的なものとしてあるために今ある資源、地区に潜在する魅力を実際到大崎で体験して考え、学生目線・よそ者目線で活かして、地区内外の人々に伝えてほしい。

### 2. 活動の内容

今年度の活動として、初めに、実際到大崎を訪れて、魅力である自然を満喫できるシーカヤックを体験し、訪問者の目線から地域の価値を感じ取った。また、ブルーベリーを栽培していることも一つの魅力であり、私たちがそのブルーベリーの魅力をどのようにすれば地域内外の方に伝えることができるのかを考え、ブルーベリーを使用したクッキーサンドをブルーベリー収穫のイベントで提供した。そして、より地域外の方に大崎の魅力を知ってもらうために、和歌山大学の大学祭にて模擬店を出店した。大崎地区ではタコも一つの特産品であるため、このタコを使った焼きそばを提供した。想定以上の多くの方に手に取って頂くことができ、ただ単に魅力を感じるだけでなく、訪問する一つのきっかけになればよいと感じた。最後に、昨年度に制作した「大崎ガイドブック」の改訂を行った。より広い範囲に配布することを考えた際、文字の見やすさや地区の情報を更新するべきではないかとの意見をメンバーで出し合い、修正を行った。次年度では印刷を行い・公共施設等も含めたより広い範囲へと配布を行いたい。

### 3. 活動を通じて

1年間の活動を通じて、ただ単到大崎地区に潜在する魅力を発掘・再発見するだけでなく、いつも訪問した際には私たちが温かく出迎えてくださる地域に住む皆様方に感銘を受け、訪れた際には安心感を抱くほど、大好きな地域となった。地域の現状を把握し、自分たちが何をすべきかを考えてそれを行動に移すことは簡単な事ではなかったが、メンバーと協力し合い、自分たちなりに大崎の魅力を地域内外に伝えることができたと考える。

## 4. 成果ポスター

# 海南市大崎LPP

～アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、地域内外に伝える～

### フィールドワーク

大崎の魅力を学生自身が体験・発見するために、フィールドワークを行いました。自然豊かな大崎のフィールドを活かしたシーカヤックの体験を行い、非日常的な景色を堪能したことのほかにも地域の方との交流も含めた食事会を実施し、学生自身が大崎地区の魅力を楽しみながらも、地域の良さを発掘し、地域内外に伝えるための大きな一歩となりました。



### ブルーベリー収穫イベント

大崎地区の夏のイベントであるブルーベリー収穫イベントの一つとして、学生メンバーで発案したブルーベリーを使用したスイーツを地域内外の方に向けて販売を行いました。試作から始まり大変なことも多くありましたが、メンバーで話し合いを重ね、改善を何度も行いました。購入した方からは「すごくおいしかった」との声を頂くこともあり、大崎の一つの魅力を伝えることができたと考えます。



### 秋祭り

1年の中で大崎地区の最も大きなイベントである秋祭りに参加しました。参加者側としてお祭りを楽しむ中でも、どのような歴史がお祭りにはあるのかや地域の方にとってお祭りはどのような存在であるのかを考えて楽しむことができました。また、学生メンバーで魚釣りゲームを発案し、すべての年代の方に楽しんでもらうことができました。



### 大学祭

和歌山大学の大学祭にて大崎地区の魅力をより多くの方に知ってもらうために、大崎地区の名物である「地だこ」を使用した焼きそばを提供しました。材料の準備や模擬店の運営など少ないメンバーではありましたが、一致団結してより多くの方に魅力を伝えることができたと考えます。



### ガイドブック

昨年度に大学、大崎地区に配布させていただいた「大崎ガイドブック」の改訂版を作成しました。より多くの方に読んでいただくために内容の更新をするほかにも、レイアウトを変更するなど「行ってみたい」と思えるようなものにメンバーで改善しました。来年度にはより広範囲に配布できるように進めたいと考えています。



### まとめ

1年間の活動を通して、ただ単に大崎地区に潜在する魅力を発掘・再発見するだけでなく、いつも訪問した際には私たちを温かく出迎えてくださる地域に住む皆様方に感銘を受け、訪れた際には安心感を抱くほど、大好きな地域となりました。地域の現状を把握し、自分たちが何をすべきかを考えてそれを行動に移すことは簡単な事ではありませんでしたが、メンバーと協力し合い、自分たちなりに大崎の魅力を地域内外に伝えることができたと考えます。今後もこのLPPで得た力を大学だけでなく、社会に出た際にも活かしていけるようにしたいと考えます。



宇田朱純 柏木大和 中野真結 奥田紗羽 北林歩夏 那須ひなた 本田つぐみ

## 和歌山県有田市宮原

### 青みかん(摘果みかん)の価値を上げる



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:6名

(1年生:1名、2年生:5名)

活動期間:2025年5月～

顧問:永瀬節治

#### 1. 活動実施の経緯

有田みかんの産地である有田市宮原地区では、収穫前にみかんの大きさを揃えるために成りすぎた果実を減らす作業(摘果作業)によって産業廃棄物の一部となって捨てられている「青みかん(摘果みかん)」の価値向上に向け、6年前から活動を行っている。昨年度は、有田市の醤油醸造業者と共同開発していた「青みかんぼん酢」の商品化が実現された。今年度は、商品化された「青みかんぼん酢」の販路拡大をはじめ、地域イベントへの出店や地域イベント企画、地域の企業を巻き込んだ商品開発を通して、青みかんの新たな価値を見出すことを目的とした活動計画を設計した。

#### 2. 活動の内容

6月と7月はみかん畑の草引き及び摘果を目的とする現地訪問を行い、8月に宮原地域で行われる夏祭りに向けて準備に取り組んだ。8月13日に宮原地域で開催された「宮原盆BON!!祭り」では学生が製作した青みかんサイダーを販売した。また、7月には現地の洋菓子店を訪問し、青みかんスイーツの試食会と、今後の方向性についての話し合いを行った。12月からは大学生協書籍購買店にて「青みかんぼん酢」の販売を開始した。1月18日には学生が企画・運営する地域の親子イベントを開催し、小学生との交流や、青みかん及び青みかんぼん酢の魅力発信に取り組んだ。

#### 3. 活動を通じて

地域イベントや自分たちが企画・運営をするイベントを通して、多くの人に青みかんの魅力を伝えることができた。しかし、SNSでの頻繁な情報発信があまりできなかったため、来年度以降の課題として取り組んでいきたい。来年度は青みかんスイーツの開発に取り組むと共に、青みかんのさらなる魅力を引き出すため、新たなレシピ開発に力を入れたい。また、地域外の人にも青みかんの魅力を知ってもらうために、地域外のイベントへの参加や大学祭への出店なども検討したい。

## 4. 成果ポスター

### 宮原青みかんLPP



私たちは有田みかんの生産途中で間引かれて、本来捨てられてしまう摘果みかん(青みかん)の価値向上を通じた地域活性化を目指して活動を行っている。今年はL活として再出発し、学生を主体として、前年度までの活動を継続した。

#### 宮原盆BON祭り 屋台出店

昨年に引き続き、8月に有田市宮原で開かれた宮原盆BON祭りに参加し、今回で3度目となる青みかんサイダーの販売を行った。今回も多くの地域の方に青みかんサイダーを購入していただいた。このお祭りを通して、有田宮原の地域の方に、自分たちの活動や青みかんについて知ってもらえることができたと思う。



#### 青みかんぼん酢

昨年度、則岡醤油製造元様との共同開発により商品化が実現した「青みかんぼん酢」は、今年度さらに販売を拡大した。新たに近鉄百貨店和歌山店での販売が実現し、大きな一歩となっている。今後もさらなる展開を目指し、多くの方に手に取ってもらえるよう取り組んでいく。



#### 青みかん 摘果作業参加

実際に農家の畑へ伺い、草抜きと青みかんの摘果を行った。傾斜のある場所での草抜きは、暑さもあり大変であったが、その後、摘果のために再び訪れた際には通りやすくなっており、草抜きが大切な作業であったことに気づいた。摘果では、自らの手で実際に実を取ることで、青みかんをそのままにしておくのは勿体ないという思いを実感した。その結果、より一層、周囲の人々に青みかんを知ってもらいたいと考えるようになった。



#### スイーツ開発

昨年に引き続き、有田市の洋菓子店と、青みかんを使用したスイーツの共同開発に取り組んだ。試作品の試食までは実施し、味やアイデアの面では一定の手応えを感じたが、菌検査の基準をクリアできず、販売には至らなかった。この経験を通して、商品として世に出すためには、味やコンセプトだけでなく、衛生管理や検査体制など、多くの工程と課題があることを学んだ。

#### 地域での イベント企画

昨年開発した青みかんぼん酢を活用し、地域の小学生に実際に味わってもらうことを目的とした交流イベントを開催した。当日は、小学生およびその保護者と共に、青みかんぼん酢を使用したハンバーグ作りを行ったほか、青みかんを題材としたクイズ大会も実施した。本イベントを通して、地域住民との交流を深めるとともに、自分たちの活動や青みかんの魅力を、より多くの人々に伝えることができた。



#### 今後の展望

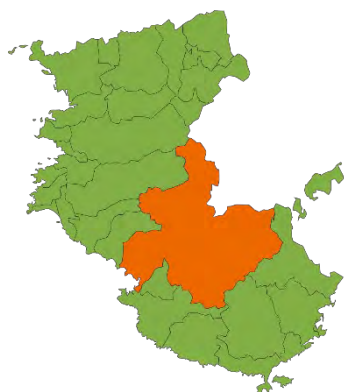
本年度はL活の初年度であったため、模索しながら活動を進める一年だった。その中で地域の方々との交流を通して、地域資源や人とのつながりの大切さなど、多くの学びを得ることができた。来年度は、SNSを活用した情報発信や青みかんを使ったレシピの開発に力を入れ、活動の幅をさらにひろげていきたい。



@MIYAHARA\_MIKAN\_LPP

## 和歌山県田辺市龍神村

### 地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:8名

(1年生:2名、2年生:1名、4年生:5名)

活動期間:2024年10月～

顧問:大浦由美、佐々木啓

#### 1. 活動実施の経緯

田辺市龍神は古くから林業が盛んな地域であり、林業は主要産業として地域に根差している。これまでの活動を通して森林がもたらす恩恵を発見できたが、同時に後継者不足や獣害などの林業を取り巻く問題も明らかになった。こ

れらの問題を解決するには地域愛と相互理解を深めることが重要だと考え「地域塾構想」を地域の方々に提案した。

#### 2. 活動の内容

##### <事前学習/現地訪問>

龍神村訪問にあたり8月に和歌山県の職員の方をお招きし、事前学習を学内にて実施した。また9月に一泊二日で行った現地訪問においては、実際に林業の作業の様子や特用林産物の生産の場などを見学した。

##### <資源地図の作成>

夏休みに行った龍神での現地訪問を振り返るため、「学びの場としての龍神」をテーマに、資源地図作成のワークショップを行った。ワークショップを通して、龍神の「資源」や「課題」「魅力」が可視化され、現地訪問で得た学びを整理することができた。

##### <翔龍祭への参加>

11月22日・23日に開催された翔龍祭には、木育ジャングルジムのブースのスタッフとして参加した。また作成した資源地図を会場に展示し、足を運んだ方に見ていただくことができた。

#### 3. 活動を通じて

活動の中で中学校や高校に連絡を取ったが、中高生を対象とした地域塾開催の難しさを痛感した。また次年度以降活動を継続するかについては1・2年生のメンバーと相談していきたい。また中高生を対象とするのではなく、観光学部の学生を中心とした大学生に参加者のターゲットを変更することで大学内でできる活動を増やし、地域塾構想を形にする案も出ており今後についてはメンバーと協議する必要がある。

## 4. 成果ポスター



# 龍神LPP

## 地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化

上野山・梅田・上原・岩田・鈴木愛理・鈴木愛乃・長野・宮下

### 田辺市龍神村について/これまでの活動

田辺市龍神は古くから林業が盛んな地域であり、林業は主要産業として地域に根差しています。私たちはまず森林組合や木材市場を訪問し林業の生産から販売の現場を見学しました。また半農半林の生活を営む方に龍神での暮らしについてお聞きしたり、実際にチェーンソーを使ってみることで龍神のリアルを体験しました。そして龍神中学校でヒアリングを行い、龍神で暮らす子供たちの林業への意識を調査しました。

3年間の活動により森林がもたらす恩恵を発見できましたが、同時に後継者不足や獣害などの林業を取り巻く問題も明らかになりました。私たちはこれらの問題を解決するには地域愛と相互理解を深めることが重要だと考え「地域塾構想」を地域の方々に提案させていただきました。



### 事前学習/現地訪問

龍神村訪問にあたり8月に事前学習を学内で行いました。和歌山県の職員の方をお招きして林業について学びを深めました。ここでは、林業がただ木を切り木材を作るだけではなく、特産林産物など森林の恵みもたらす資源による収入があることも学びました。

また9月に一泊二日で行った現地訪問においては、実際に林業の作業の様子や特産林産物の生産の場などを見学させていただきました。言葉で聞くのとは違った林業の壮さや作業員の方の巧みな技にとっても驚きました。龍神村には至る所で木材が使われており、本当に林業で成り立っている地域なのだと感じました。林家の方々や龍神村の森林に関わる方々はその仕事にとっても誇りを持っているように見えました。



### 資源地図の作成

夏休みに行った龍神での現地訪問を振り返るため、メンバーで資源地図作成のワークショップを行いました。「学びの場としての龍神」をテーマに、各自が印象に残った場面の写真を持ち寄り、そこから得た学びや心に残った点を発表しました。同じ場面の写真であっても、着眼点や魅力の捉え方が人によって異なり、新たな気づきを得られたことがとても印象的でした。写真を選ぶのに悩みましたが、龍神の内側にある地域の方々のこだわりや熱い思いそして日々の大変さをより深く理解する機会になりました。ワークショップを通して、龍神の「資源」や「課題」、「魅力」が可視化され、現地訪問で得た学びを整理することができました。改めて龍神の温かさや人々の思いを実感できる、非常に有意義な時間となりました。

### 翔龍祭への参加

11月22日・23日に翔龍祭に参加させていただきました。

「わがらの山のくらし」をテーマに、森林資源と触れ合うことができるワークショップや地元農産物や食品を販売するお店が立ち並びました。私たちは、組んで楽しむ木育ジャングルジムのブースで参加者の子供たちのお手伝いをするスタッフをしました。小学生だけでなく、未就学児のお子様にも木と触れ合いながら遊んでもらうことができ、とても楽しかったです。また作成した資源地図を会場に展示し、足を運んだ方に見ていただきました。

さらに龍神村のゲストハウス「もんべとくわ」に宿泊したり、龍神温泉の元湯に行ったり、龍神村の新たな魅力に気づくことができました。



### 次年度に向けて

中高生を対象とした活動が極めて難しいことから、次年度以降の活動については検討を進めています。大学生を対象としたフィールドワークなども視野に龍神のことや和歌山県の林業について多くの人知ってもらいたいです。



BRYUJINLPP\_WAKAYAMA

## 和歌山県和歌山市

### まちなかの地域資源と公共空間を活用した

### 和歌山市駅前のまちづくり



#### 【活動の基本情報】

参加学生数:15名

(1年生:5名、2年生:1名、3年生:9名)

活動期間:2025年11月～

顧問:永瀬節治・宋多情

#### 1. 活動実施の経緯

南海和歌山市駅地区周辺では、2014年より、地元の商店街や自治会、そして永瀬ゼミが中心となって、市駅前通りや紀の川河川敷での社会実験や駅前広場でのイベントなど、様々な活動に取り組んできた。今年度で永瀬准教授

は和歌山大学を離れることになるが、これまでの地域との連携を継続・発展させるため、新たに学生主導のLPP(L活)を立ち上げた。

#### 2. 活動の内容

- ・新たなメンバーと顔合わせをし、和歌山市駅周辺をまちあるき
- ・市駅前ストリートガーデン「しえきのにわ」サインボード作成
- ・12月20日開催の「市駅クリスマスナイトフェスタ」において、イベントの企画立案・実施や当日運営手伝いを担当

#### 3. 活動を通じて

ゼミ生は、ゼミ活動を昨年3月から市駅前広場やストリートガーデンで行ってきたため、まずは、新たに加わったメンバーとともに実際に市駅周辺を歩き、見て回ることで、活動フィールドを具体的に共有する機会を設けた。対象地の背景や理解を深め、今後の活動をイメージしやすい環境づくりにつながったと考える。

クリスマスナイトフェスタ内で実施するコンテンツについて、企画提案し、実現までを行い、主体的に関わる姿勢が見られたことが良かった点だと考える。

一方で、ゼミ生と新たに加わったメンバー間で作業時間や共有する情報量の違いが生じ、活動の進め方において、工夫できた点があった。今後は、「何かのお手伝い」に留まらず、対象地において、「こんなことができれば面白い」、「こんなことが実現できれば楽しい」という、各々の想いを伝え実現に向けて活動を行い、楽しいから参加する、楽しいと思うことを実現するために努力するという、自ら進んで行動を生む環境作りを行なっていくことを目指して行く。

#### 4. 成果ポスター

和歌山大学観光学部生×一般社団法人市駅グリーングリーンプロジェクト



# 市駅まちづくりLPP

2025.11~2026.1

### 概要・経緯

南海和歌山市駅地区周辺では、2014年より、地元の商店街や自治会、そして永瀬ゼミが中心となって、市駅前通りや紀の川河川敷での社会実験や駅前広場でのイベントなど、さまざまな活動に取り組んできました。今年度で永瀬准教授は和歌山大学を離れることとなりますが、これまでの地域との連携を継続・発展させるため、新たに学生主導のLPP（L活）を立ち上げました。

### Topic 01 市駅前まちあるき

永瀬准教授とゼミ生に案内していただき、和歌山市駅周辺を訪問しました。市駅ストリートガーデンや和歌山市民図書館など、市駅グリーングリーンプロジェクトの活動場所を見学し、和歌山市駅周辺地域や活動内容への理解を深めました。



### Topic 02 しえきのにわ看板

「しえきのにわ」に設置するサインボードを作成しました。文字に緑を取り入れることで、周囲の景観と調和するよう全体の統一感を意識しました。今後は実際に設置し、多くの人に「しえきのにわ」の存在を知ってもらうことを目指しています。



### Topic 03 市駅クリスマスナイトフェスタ

実施日 2025年12月20日

開催概要 「けやきライトパレード」の点灯エリアが市駅前通りを経て市駅まで拡大したことに伴い、12月20日に「SHIEKI X'mas Night Festa」が市駅前広場と市駅前通りで開催されました。

当日はイベント運営のお手伝いとして参加し、わなげや一本釣りなどの縁日、ポトフの販売、モールで作るクリスマスツリーワークショップを実施しました。

多くの方にご参加・ご来場いただき、今後の活動への期待が膨らむ一日となりました。



ポトフ販売



モールでクリスマスツリー作り体験



スタンプラリー

アンケートも併せて実施・回収いたしました。次年度に集計・分析を行い、今後の施策検討の参考にいたします。

### Topic 04 今後の展望・予定

#### 市駅ストリートガーデン 今後の展望

滞在を促すアイテムの検討や配置の工夫、このフィールドを活用したイベントの実施など、ソフト面を中心にブラッシュアップを進めていきます。



前年度の様子

#### 2026年度スケジュール

- 4/12 はたらくクルマ
- 夏ごろ 市駅夏祭り
- 秋ごろ 自主企画

#### L活としての今後の展望

市駅ストリートガーデンという場をどう使い、どんな時間を生み出せるかを自分たちで考え、イベントを一緒に企画し実行することで、関わりの幅を広げたいと考えています。

### 3. 2025 年度 LPP 参加学生交流会の実施

LPP に関する 5 つのテーマについて、グループディスカッションを行った。各テーマにはファシリテーター(リーダーを務める学生が担当)が付き、参加学生 5~7 名のグループに分かれて 7 分間の意見交換を行った。1 つのテーマでの意見交換が終われば次のテーマへ移動することで、全員が 5 つのテーマについて意見交換をした。なお、グループは事前に組分けし、複数の LPP プログラムから数名ずつが混合した構成とした。ファシリテーターを中心に、学生の意見を付箋に書き出し、模造紙に貼付することで意見交換の活性化を目指した。

開催日時:2025 年 10 月 20 日(月)、21 日(火) 両日とも 16 時 40 分~18 時頃

会 場:和歌山大学 西 4 号館 T-101 教室

参加者数:20 日(月)学生 68 名、21 日(火)学生 36 名

#### ■当日のディスカッションテーマ

1. メンバー同士の協力・グループ運営:役割分担、モチベーションの差、意見を出しやすい雰囲気づくりなど
2. 地域との関わり方:活動を地域の人にどう伝えるか、地域からどんな反応を感じたか、よりよい関係を築くには?
3. 情報発信・広報:SNS などを使った発信の工夫
4. 自分の成長と学び:LPP で気づいたこと、想像と違ったこと、成長できたことや課題
5. 授業と LPP のつながり:LPP の経験を授業に活かす / 授業での学びを LPP に活かす

地域連携プログラム（LPP）での学びの共有と発展を目的としたLPP参加学生の交流会を開催します。交流会では、LPPに関する5つのテーマについてグループディスカッションを行います。2025年度の折り返し、この半年間までの活動の振り返りや、今後の活動、地域との関わりについて、プログラムの垣根を越えて考えてみませんか？

## 和歌山大学観光学部 地域連携プログラム LPP参加学生交流会 2025



日時：2025年10月20日（月）、21日（火）  
いずれも16時40分～18時（予定）  
＊16時30分～受付開始

会場：西4号館 T101教室

- 「LPP参加学生交流会」は、原則、全員参加です。  
LPP参加学生の皆さんは、いずれかの日程に必ずご参加ください。  
・9月26日（金）23:59までに、右記QRコードから出席可能な日程を選択してください。  
授業との重複などにより欠席する場合も必ず回答してください。
- Lゼミ参加学生（1～3年生）は、本会への参加時間をLPPの単位認定時間として算入してください。



参加確認フォーム

お問い合わせ先：  
和歌山大学観光学部 観光実践教育サポートオフィス（西4号館 2階 K216室）  
TEL 073-457-8553 E-mail t-local@ml.wakayama-u.ac.jp



#### 4. 2025 年度合同活動報告会の実施

2025 年度に実施した LPP の活動報告について、その取り組みを広く共有し、学生が活動を振り返り、自身の学びと今後の活動のブラッシュアップを図るため、「2025 年度 LPP 合同活動報告会」を実施した。本報告会は、各プログラムのリーダーを務める学生が中心となり、企画、運営をした。当日のプログラムについては次頁を参照のこと。

開催日時:2026 年 1 月 29 日(木)、30 日(金) 両日とも 16 時 30 分~18 時 30 分頃  
会 場:和歌山大学 西 4 号館 T-101 教室、1F エントランスホール、2F 多目的スペース  
主 催:和歌山大学 観光学部  
来場者数:29 日(木)学生 66 名、教職員 9 名、一般 33 名  
30 日(金)学生 76 名、教職員 9 名、一般 11 名

##### 1)発表について

各プログラムが作成したポスター\*(一部のプログラムでは追加資料として動画やグラフ等)をスクリーンまたはモニターに掲示しながら、参加学生による 5 分間の活動報告の後、3分間の質疑応答を行った。参加者および学生からの発表内容に対する意見や感想は、報告後の質疑応答タイム及び交流会で行った。また、Microsoft Forms を併用し、ご意見、ご質問の収集にあたった。回収したご意見等は、各プログラムのリーダーに共有した。

\*発表の際使用したポスターについては、各プログラムの活動報告(本誌 P.12~P.47)を参照のこと。



2025年度

# LPP合同活動報告会



和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」

2025年度に実施した全18プログラムの参加学生が一同に会し、活動報告を行います。  
学内だけでなく、受入自治体など学外関係者の皆様のご参加を歓迎いたします。  
LPPを通じた貴重な交流の機会です。皆様のご来場をお待ちしております。

2026年

1月29日（木） 16時30分～18時30分  
30日（金） (予定)

和歌山大学 西4号館（和歌山市栄谷930番地）

T-101教室、1F エントランスホール、2F 多目的スペース

## LPP（地域連携プログラム）とは

地域活性化に関心を持つ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携して地域が抱える課題の解決を目指すプログラムです。

地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動を行うことで、双方にとって新たな気づきの機会となるのがLPPの特徴です。

観光学部HP「地域連携プログラム（Local Partnership Program, LPP）」  
[https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/local\\_study/lpp.html](https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/local_study/lpp.html)



お問い合わせ先：

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL/FAX 073-457-8553/073-457-8586 E-mail [tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp)

主催：和歌山大学観光学部

## 2025年度LPP合同報告会 プログラム

2026年1月29日（木） 30日（金） 16時30分～18時30分（予定）

### ■受付

16:30～16:45 受付（2F 多目的スペース）

### ■2025年度 LPP合同報告会

16:45～17:00 開会あいさつ・趣旨説明（T101教室）

17:00～17:50 LPP活動報告（ポスター発表 報告時間：8分、転換：2分）  
◇発表場所： A：T-101教室 / B：2F 多目的スペース

	1月29日（木）		1月30日（金）	
	A	B	A	B
17:00～17:08	<b>美浜町</b> 美浜町の魅力発信と 観光誘客	<b>和歌山市</b> サッカークラブを 活用した地域活性化ー アルテリヴォ和歌山 と学生がつくる 地域共創プロジェクト	<b>紀美野町</b> 棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた 体験観光	<b>広川町</b> 和歌山県広川町の 地場農産物を活用した 新商品の開発
17:10～17:18	<b>上富田町</b> 旅する蝶を見に行こう！ 学生力と地域力で 創造する 地域交流コンテンツの 開発	<b>紀の川市</b> フルーツドレッシングの PR企画・立案	<b>有田市</b> 防災で地域をつなぐ 多世代交流まちづくり	<b>石垣市</b> 国立公園・石垣で学び、 考える、 観光ビジネスによる 地域活性化
17:20～17:28	<b>有田川町</b> 学生との協働による 棚田保全・集落支援活動 （沿地区／棚田ふぁむ）	<b>すさみ町</b> コモンの再生First Step 「過疎地の芸術祭を通 して、新たな観光の意 味を見出そう！」 ～すさみアート キャンプ2025 における 試行と実践～	<b>新宮市</b> 新宮市を訪れる観光客の ニーズ調査・分析及び コンテンツ発掘・発信	<b>貝塚市</b> 貝塚再発見！ 学生がつなぐ観光の 可能性
17:30～17:38	<b>田辺市龍神村（L活）</b> 地域塾による 龍神村の資源を活かした 山村活性化	<b>和歌山市</b> （南海和歌山市駅周辺／ L活） まちなかの地域資源と 公共空間を活用した 和歌山市駅前の まちづくり	<b>阪南市</b> 阪南市の観光振興と 魅力発信	<b>有田市（L活）</b> きみかん（撞果みかん） の価値を上げる
17:40～17:48	<b>和歌山市（雑賀崎/L活）</b> 雑賀崎の観光スポットの 情報発信と 空き家の利活用		<b>海南市（L活）</b> アクティビティを楽しみ ながら、 地域の魅力を考え、 地域内外に伝える	
17:50～18:10	交流会（各LPPブース）			
18:15～18:25	講評（T101教室）			
18:25～18:30	閉会あいさつ（T101教室）			

- ・ご来場の際はまず受付（2F 多目的スペース）にお越しください。
- ・活動報告はA/Bに分かれて実施します。自由に移動してお聞かください。  
質問や意見交換などは、交流会の時間に各ブースで行ってください。
- ・エントランスホールおよび多目的スペースでは、各プログラムの成果物や活動地域の特産品、パンフレットを  
展示しておりますのでぜひご覧ください。
- ・報告後、交流会の実施を予定しております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

## 2)発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

### 和歌山県和歌山市

テーマ：-サッカークラブを活用した地域活性化-アルテリーヴォ和歌山と学生がつくる地域共創プロジェクト

#### ●報告について

報告会では、初年度の活動の難しさや今年度の活動内容について発表を行った。また、「アルテリーヴォ和歌山」について知らない人に向けた説明も行った。特に、他グループの発表にはなかったアンケート調査の結果詳細を発表することができた点は、今年度の成果であった。課題が多く残る活動期間であったため、明確になった課題と来年度に向けた活動予定について発表した。来年度に残るメンバーが少ないこともあり、1・2年生中心で発表の構成を考えた。

#### ●質疑応答

Q.来年度はどの程度の時間、活動する予定なのか。

A.8月下旬の試合でイベントを実施する予定であるため、それに向けて4月から積極的に活動していきたい。

### 和歌山県紀の川市

テーマ：フルーツドレッシングのPR企画・立案

#### ●報告について

昨年度から引き続き、ドレッシングの商品開発を行った。今年度は主に商品の販売およびPR活動を中心に活動した。商品の販売においては、現地での2度のテスト販売を通して売れ行きの調査などを行い、PR活動においてはメンバー全員でポスター制作を行い、様々な機会を利用して配布した。テスト販売では予想以上の本数を売り上げることができ、達成感を味わうことができた。本活動を通して、マーケティングやデザイン制作、現地訪問など多くの貴重な体験をすることができ、実践的な商品開発を学ぶことができた。

また、それと同時に紀の川市の「藤桃庵」とのコラボメニュー開発にも取り組んでいる。来年度からはこれを中心に活動を行い、紀の川市の発展のためにLPPとしてできることを考えていきたい。

#### ●質疑応答

Q.なぜ、学生ではなく年齢の高い層をターゲットにしたのか。

<p>A.商品の原材料は原価が高く、それに伴い商品の単価も高くなると予想されたため、比較的余裕のある 40～50 代をターゲットにした。また、ドレッシング自体が無添加かつ発酵したフルーツを使用しているため、健康に価値を置く世代をターゲットにしたかったことも要因である。</p> <p>Q.今後どのようにして商品の販売拡大を行うのか。</p> <p>A.SNS や新聞への掲載を通して認知拡大を図る。本商品は全国販売が目的であるため、多くの人に商品について知ってもらえるような工夫を検討していく。</p> <p>Q.商品の権利についてはどうなっているか。</p> <p>A.企業側に委ねているため、学生側で回答できることはない。</p>
---

#### 和歌山県海草郡紀美野町

<p>テーマ:棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた体験観光</p> <p>●報告について</p> <p>紀美野町小川 LPP は、本年度の活動として「棚田を学ぶ・棚田で学ぶ」を軸に、地域資源を活かした体験観光の形を考え続けた。田植え・稲刈りなどの農作業体験に参加しながら、棚田が持つ価値や現場の課題を学び、学生の視点で「来てもらう理由」をつくるための企画づくりを進めた。</p> <p>特に本年度は、学生主体でイベントを企画・運営することに挑戦し、竹を切り出すところから行う竹炊飯体験と、防災の視点を取り入れたクイズラリーを組み合わせたプログラムを実施した。事前にはアンケートで方向性を整理し、企画・ロジ・広報のチームに分かれて準備を進め、当日は安全管理や進行、記録撮影などを分担して運営した。</p> <p>報告会では、イベントの内容と当日の様子に加え、準備から実施までのプロセスを通して見えてきた学びや課題をまとめて共有する。この一年の活動を通して、地域の方との連携の仕方、限られた時間の中でチームとして動く力、現場の状況に合わせて調整する力など、座学だけでは得られない経験を積み、成長することができた。</p> <p>●質疑応答</p> <p>Q.活動の中で大変だったことは？</p> <p>A.イベントには小さな子供が複数人参加していたが、予想外の行動をすることも多かったため、危険予知などの安全対策に苦労した。</p> <p>Q.今後活動に参加したいと思っている人に向けてのアドバイスは？</p> <p>A.やはり現地に何度も足を運ぶことが大切だ。現地に赴かなければわからないことがたくさんある。</p>
---

## 和歌山県有田市

テーマ:防災で地域をつなぐ多世代交流まちづくり

### ●報告について

有田市防災 LPP は、昨年度までの「有田市箕島 LPP」を継承する形で発足した。主な活動としては、昨年度と同様にスマホ講座を実施した。また、メインイベントとして「あそぼう祭」を開催した。これは、有田市で活動している「マモッチャクラブ」と協力して行った防災イベントである。地域住民と接する機会が多く、その声を直接聴き、活動に取り入れることができた。報告後には、興味を持った来場者が質問や意見交換に訪れてくれた。

### ●質疑応答

Q.あそぼう祭の広報はどのように行ったか。

A.他のLPPとは異なり、高齢層を主なターゲットとしていたため、SNSでの広報は行わず、ポスターの掲示や近隣小学校でのチラシ配布を中心に行った。

Q.あそぼう祭の主催者は誰で、LPPとしてどのようにイベントに関わったのか。

A.マモッチャクラブとの共催という形で、企画・準備・運営の全工程に携わった。当日は各ブースの担当として、マモッチャクラブのメンバーとペアを組み、運営にあたった。

## 和歌山県有田郡広川町

テーマ:和歌山県広川町の地場農産物を活用した新商品の開発

### ●報告について

2024 年度に発足し、今年で 2 年度目となった広川町 LPP は、3 年生 2 名、2 年生 2 名、1 年生 3 名の計 7 名で活動してきた。今年度の主な活動内容は、昨年度の現地調査の結果をもとに、商品開発に向けた取り組みを行ってきた。5～6 月にかけては商品案の構想をし、7～9 月にかけて学生で試作を繰り返した。9 月には昨年から 2 年連続となる、1 泊 2 日の宿泊研修を行った。1 年生にとっては初めての現地訪問であり、広川を知ってもらうことができた。

今年度は試作段階に時間がかかってしまい、試作品を広く評価してもらう機会を作ることができなかつたことが心残りである。2 年という短い期間で商品を実際に商品化し、販売まで持っていくには、事前知識やあらゆる想定が必要だと感じた。来年度以降は特産品をアピールしつつ、地域内の繋がりを維持するような新たな取り組みを行っていきたいと考えている。

### ●質疑応答

Q.商品化に向けた試作段階で、プロの監修は受けたか。

A.受けていない。学生で試作を重ねていくうちに、商品のクオリティを上げるために壁があると感じ、現地でスコーンを作っている方に協力を要請しようとしたが、都合がつかず実現できなかった。

Q.実際に商品化して売る際に、商品名の検討はしないのか。

A.今年度当初の予定よりも、試作段階に時間を要してしまい、実際に商品名を検討するなどの段階まで進めることができなかった。

## 和歌山県日高郡美浜町

テーマ:美浜町の魅力発信と観光誘客

### ●報告について

報告会では、1年間の活動をまとめた動画を用いて、美浜町 LPP で行ってきたことを発表した。活動のメインである動画作成や、そのための素材を集める現地訪問、開催したイベントについて報告し、得られた成果についても発表することができた。1年間の活動の中で、思うように進まず苦戦した部分も多くあったが、最終的に成果を報告することができ、有意義であったと感じている。

また、他の LPP の活動報告を受けて、普段はなかなか知ることのできない活動内容について具体的に把握することができ、さらに活動を円滑に進めるための工夫についても学ぶ点が多くあった。これらの学びをもとに、次年度以降はより良い活動ができるように努めていきたい。

### ●質疑応答

Q.発信を行って、実際にどのような効果が得られたか。

A.まだ発信を始めて間もないため、結果の検証は行えていない。次年度以降に取り組んでいきたい。

Q.おすすめしたい美浜町のスポットはどこか。

A.一番に訪れてほしいのは、美浜町の目玉観光スポットである煙樹ヶ浜であり、そこから周辺のカフェ等を巡ってほしいと考えている。

Q.今後はどのように活動の幅を広げていきたいか。

A.今年度は Instagram での情報発信がメインであったため、次年度以降は YouTube などの他のプラットフォームを用いて、より広く発信を行っていきたい。

Q.広めるためにどのような工夫を行ったか。

A.投稿する際に様々なハッシュタグを付けることで拡散を狙い、また投稿を各メンバーが個人のアカウントで共有することで、多くの人目に触れるように工夫した。

#### 和歌山県西牟婁郡上富田町

テーマ:旅する蝶を見に行こう！学生力と地域力で創造する地域交流コンテンツの開発

##### ●報告について

報告会では、上富田町がどのような町なのか、イベントで自分たちがどのような活動に携わったのか、そしてワークショップや活動を通じた振り返りと今後の展望について発表した。イベント当日にはアーティストライブやアサギマダラの鑑賞などが行われ、地域住民と交流を重ねるなかで、地域の温かみや地元愛があるからこそ活動が成り立っていることを改めて実感した。その後の、2度にわたって行われたワークショップでは、上富田町の魅力や今後の展望について話し合った。次年度からは、情報発信の方法や観光資源の具体的な活用策について検討していきたい。

##### ●質疑応答

Q.ワークショップは学生のみで行ったのか、地元の方も含めたワークショップだったのか。

A.まず学内でメンバーのみのワークショップを行い、その結果の共有を兼ねて、現地でもワークショップを行った。

Q.交流会はどのようなメンバーで行ったのか。

A.役場の方や「Daruma CLUB」の方々、地元の高校生や教員などを含めたメンバーで行った。

#### 和歌山県西牟婁郡すさみ町

テーマ:コモンの再生 First Step「過疎地の芸術祭を通して、新たな観光の意味を見出そう！」～すさみアートキャンプ 2025 における試行と実践～

##### ●報告について

報告会では、「すさみアートキャンプ」を中心とした今年度の活動内容および、アートキャンプに向けて制作した作品について報告を行った。アートキャンプでは、地域内外の方々との出会いや交流を通して、地域住民と都市住民それぞれの視点に触れることができ、多くの学びを得ることができた。あわせて、そうした関わりの中で見えてきた課題についても共有した。また、新鮮な魚が次々と振る舞われるなど、すさみらしさを体感できたことについても報告した。作品制作にとどまらず、制作した作品を活用したワークショップの企画・実施にも取り組むなど、地域の皆様や先生のご支援のもと、学生それぞれが自身の得意分野を活かしながら、主体的に活動を行うことができた。

今年度は、創作活動を通じて地域への理解を深めること、そして地域住民の方々との関係構築を主な目的として取り組んできた。来年度は、今年度に得た知見や経験を踏まえ、「すさみらしさ」を活かした場所づくりの実現に向けて活動を進めていきたい。

●質疑応答

Q.「すさみ」でのプログラムを選んだきっかけは何か。

A.すさみという地域自体に魅力を感じたことや、自分と地域との関わり方を模索したかったことが挙げられる。また、「アートキャンプ」や「芸術祭」という言葉に惹かれ、クリエイティブな活動に興味を持ったことも理由である。

Q.現地訪問を含めた活動時間について教えてほしい。

A.「すさみアートキャンプ」の期間中は現地に滞在し、加えて現地訪問も3～5回ほど行った。それらの活動時間と作品の制作時間を合計すると、80時間程度である。

和歌山県新宮市

テーマ:新宮市を訪れる観光客のニーズ調査・分析及びコンテンツ発掘・発信

●報告について

新宮市 LPP は、2年目の活動である。本年度は、自分たちの活動を通してどのように新宮市に貢献できるのかを考え続けた。新宮市以外の場所で新宮市に対するイメージ調査や宣伝を行ったり、自分たちの活動を新宮市内で広める活動を行った。また、Instagramにて新宮市の魅力やジャンル別の動画を作成し、情報発信を行った。報告会では、2年間の活動のまとめとして、新宮市の「文化・歴史・自然・食」という4つの魅力をまとめた動画の一部を上映した。この2年間の活動を通して、地域住民と関わることやチームで動くことで得られるコミュニケーション能力の向上、座学で学んだことの実践など、多様な経験を積み、成長することができた。

●質疑応答

Q.白浜などの観光地と異なる点はどこか。

A.異なる点は多くある。例えば、新宮市は世界遺産が豊富であり、街の至る所に熊野古道に関連する遺産が存在している。また、アクセス面では白浜町に譲るかもしれないが、周辺地域(那智勝浦町、三重県紀宝町など)の経済の中心地であり、飲食店や銀行などの施設が充実している。人口以上に活気がある街で、文化、歴史、自然が日常生活と密接に関わっている点が特徴だ。こうした要素から白浜町とは異なる雰囲気を感じると考えている。

## 大阪府貝塚市

テーマ:貝塚再発見！学生がつなぐ観光の可能性

### ●報告について

貝塚市 LPP は今年度から始まった活動であり、イベント参加や SNS での宣伝を中心に活動を行った。最終ポスターの制作にあたっては、12月初旬から準備を始め、分担して文章を作成した。発表の担当者は、文章作成の担当者と同一である。報告会では、まず貝塚市の紹介から始まり、一年を通して参加したイベントの紹介、最後に来年度の目標について発表した。早めにポスター制作に取り掛かったことで、大きな滞りなく進行できたと感じる一方、発表の練習時間を十分に確保できなかったことが反省点である。

### ●質疑応答

Q.来年度行いたい活動はあるか。

A.今年度は貝塚市への理解を深める活動が中心であった。そのため来年度は、継続的な魅力発信に加え、より自主的な活動に取り組んでいきたい。具体的には動画での PR や、自分たちで企画したイベントの実施などである。

## 大阪府阪南市

テーマ:阪南市の観光振興と魅力発信

### ●報告について

報告会では、今年度の中心活動である阪南市の魅力発信を目的としたリール動画の作成および投稿について報告を行った。あわせて、地域のイベントに参加した際の様子についても報告した。具体的な報告項目は、阪南市の概要と活動目的、まちあるき、地域でのイベント、動画制作・SNS 発信、活動の振り返りの 5 項目である。発表はメンバー間で役割分担し、それぞれがポスター制作で担当した箇所を中心に説明を行った。今年度の活動でお世話になった阪南市役所の方にも参加いただき、直接感謝を伝えることができた。

また、報告会後の交流会では、阪南市役所の方と来年度の活動についての相談を行った。今年度の活動で明らかになった課題を活かし、来年度は SNS 発信に加えて、より多角的な方法で阪南市の魅力を発信できるような活動に挑戦していきたいと考えている。

### ●質疑応答

Q.SNS の投稿としてリール動画を採用した理由と、投稿文を作成する際に心掛けていることは何か。

A.リール動画を採用した理由は、近年 Instagram や TikTok などの SNS においてショート動画が主流となっており、比較的短い時間で魅力を伝えることができ、視聴者にとっても手軽に視聴しやすいと考えたためである。投稿文を作成する際には、実際に訪れたり

参加したりした際の様子を学生目線で伝えることを意識している。また、視聴者が実際に足を運びやすいよう、住所や営業時間などの基本情報を記載することも心掛けた。

#### 和歌山県有田郡有田川町

テーマ:学生との協働による棚田保全・集落支援活動

##### ●報告について

今年度の活動を振り返り、2025年5月から2026年1月までに行った各活動について、その内容と成果、学びを紹介した。発表のまとめとして、収穫した米の配布や郷土料理のレシピ発信を通じて、これまでとは異なる層の方々に沼地区の魅力を届けることができた点を今年度の成果として総括した。また、来年度は地域の方々に寄り添いながら、棚田や集落の現状により即した活動を継続していきたいと締めくくった。

##### ●質疑応答

Q.高齢化や人口減少について、今後どのように若者を呼び込み、増やしていくのか。

A.現在は「わかやま援農隊」の制度を活用し、継続的に沼地区の活動に参加している若者が一定数存在することを説明した。一方で、そうした関係人口をどのように定住人口へとつなげていくかについては、今後の活動の中で地域の方々と共に検討していくべき課題であると述べた。

#### 沖縄県石垣市

テーマ:国立公園・石垣で学び、考える、観光ビジネスによる地域活性化

##### ●報告について

豊かな自然が残る石垣島北部における地域活性化について発表を行った。現地フィールドワークでの市役所訪問やアクティビティ体験について報告するとともに、事業計画案についても報告を行った。石垣島北部は自然が豊かである一方、人口減少や高齢化が進行しており、目立った観光資源の少なさから、北部で宿泊する観光客が少ないことに着目した。また、宿泊施設も不足しているため、「サウナ」という付加価値を付けた一棟貸し形式およびゲストハウス形式の宿泊事業案について、それぞれの特徴を発表した。

最終的にはいずれかの形態に絞り、日本政策金融公庫の創業計画書に沿って事業案を確定させる予定である。

発表後の交流会では、一棟貸しとゲストハウスについてイメージ図が共有されていれば、よりイメージが沸きやすく、メリットとデメリットについて考えることができたのではないかと、という意見をいただいた。

##### ●質疑応答

Q.石垣島北部にある他の宿泊施設との連携について検討したか。

A.他の宿泊施設との連携までは想定できていなかった。宿泊施設ではなく、アクティビティやサウナを提供している事業者との連携を優先して検討していた。

#### 和歌山県和歌山市雑賀崎

テーマ:雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用

##### ●報告について

「雑賀崎と繋がろう」～ここが私のサードプレイス～というテーマのもと、今年度実施した地域の方々との交流会、流しそうめん会、運動会について発表した。また、FAVOTOWNの協力のもと実施した和歌山市在住の20～30代をターゲットとしたSNS発信についても発表した。報告を通じて改めて自分たちの活動を振り返ることができた。

##### ●質疑応答

Q.雑賀崎には全世代の方を対象にしたイベントはあるのか？また、今回実施した三つのイベントの反省点から、次年度は活動を行う際にどのようなことを心掛けたいか？

A.雑賀崎には毎年二月に「旧正月」というイベントが存在し、雑賀崎に住む全世代の人が集まる。雑賀崎LPPも例年このイベントに参加している。今年度行った三つの交流会は全て全世代の方を対象としていたが、あまり高齢者の方に参加してもらうことができなかった。参加してもらうことができなかった理由として、イベントの内容が子供向けになりすぎたこと、開催場所が標高の高いところにありお年寄りにはアクセスが悪かったことが挙げられる。このことから、次年度は高齢者の方にも興味を持ってもらえ、参加しやすい場所でイベントを行うように心掛けたい。

#### 和歌山県海南市大崎

テーマ:アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、地域内外に伝える

##### ●報告について

報告会では、2025年度の活動について紹介するとともに、今年度の活動を通して感じたこと、考えたことを報告した。具体的には、大崎地区の大きな魅力である自然を満喫できるシーカヤックをフィールドワークとして学生自身が体験することによって、地区に潜在する価値を認識するとともに、どのようにすれば地域内外に伝えることができるのかを考える大きな一歩になったことについて述べた。また、実践的な取り組みとして、地域外に魅力を伝えるために、私たちは和歌山大学の大学祭において大崎の魅力の一つである「地だこ」を用いた焼きそばを提供した。多くの人々が訪れる場所でこのような実践的な学びを得ることができたのは、大学における学びだけでなく、今後社会に出た際にも活かすことができる貴重な経験であった。そして、このような取り組みを行うことができたのも、訪問した際にはいつも温かく出迎えてくださる地区の皆様のおかげであるため、感謝を伝えるとともに、私たちが抱く大崎地区への想いを述べ、今年度の報告を締めくくった。

●質疑応答

Q.大崎ガイドブックの改訂版を編集したとのことだが、具体的にどのような箇所を修正・加筆したのか？

A.以前のマップには、現在は営業していない店舗の情報などが掲載されていたため、情報の更新を行った。また、メンバーと意見交換を行う中で文字の見にくさが課題として挙げられたため、誰が見ても見やすいような文字の大きさやレイアウト構成を心掛けた。

Q.L活に移行したうえで、大変だったことなどはあるか。

A.メンバー集めに苦労した。単位が付与されないこともあって人が集まるか不安であったが、意欲のある学生が集まり、お互いに意見を出し合って能動的に行動に移すことができたと考えている。

和歌山県有田市宮原

テーマ:青みかん(摘果みかん)の価値を上げる

●報告について

報告会では、2025年度の活動内容について紹介し、最後に今後の展望とまとめを報告した。具体的には、摘果作業をはじめとして、夏に宮原地区で開催される「宮原盆 BON 祭り」への出店や、昨年度商品化が実現した「青みかんぼん酢」の販路拡大および宣伝、青みかんスイーツの開発や地域でのイベント企画などを行った。また、来年度以降は青みかんを使ったレシピ開発や、SNSを活用した青みかんおよび「青みかんぼん酢」の宣伝などに取り組みたいという展望についても報告した。

●質疑応答

Q.商品同士のシナジー効果(相乗効果)は考えているか。

A.現在商品化し販売できているのは「青みかんぼん酢」のみのため、現時点では考えていない。しかし、「青みかん」を使用した商品の流通量が少ない中で、「有田市の青みかん」という一つのブランドとして認知を広げていきたいと考えている。

Q.ブランド名は決めているのか。

A.現時点では決まっていないが、今後活動を進めていく中で検討していきたい。

Q.青みかんスイーツはどのようなものを試作したのか。

A.青みかんを使用したバウムクーヘンや、青みかんシロップをソースにした牛乳プリンなどを試作した。菌検査の基準をクリアできず商品化には至らなかったが、今後も新たな商品化に取り組んでいきたい。

## 和歌山県田辺市龍神村

テーマ:地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化

### ●報告について

1年間の活動報告を、それぞれ分担して発表することができた。改善点としては、昨年度はポスターとは別に発表スライドを作成したが、今年度は作成できなかった。次年度以降は、必要に応じて対応を検討したい。

### ●質疑応答

Q.龍神温泉の元湯やゲストハウス「もんぺとくわ」の情報発信はどのように行うのか。

A.SNS 発信や観光振興そのものがメインテーマの LPP ではないため、それらの情報発信を活動の中心にする方針はない。しかし、LPP の活動の一環として、SNS 等への写真投稿などは継続して行っていきたい。

Q.地域塾の企画は現在どのように進んでいるのか。

A.今年度、地元の小中学校・高校へ「林業に関する学習の現状等」についてヒアリングを行った。その結果、現行の指導要領に基づく授業計画の中では、地域塾に参加する時間を割くことが難しいという実情が分かった。そこで、次年度以降は対象を大学生に変更しつつ、中高生の参加も促す形で企画の実現に向けて活動を進めていきたい。

## 和歌山県和歌山市(南海和歌山市駅周辺地区)

テーマ:まちなかの地域資源と公共空間を活用した和歌山市駅前のまちづくり

### ●報告について

市駅まちづくり LPP が始まった経緯から、3ヶ月間で行った活動、今後の展望について説明した。ゼミ生と新メンバーで交流を深めるために、まずは一緒に手を動かして作業に取り組んだことを、まちあるき、「しえきのにわ」サインボードの作成、市駅ナイトフェスタの具体例を挙げて報告した。また、今後の展望については、イベントの補助に留まらず、自分たちが市駅ストリートガーデンでやってみたいことや楽しいと思えることを実現することを目標に、関わりの幅を広げていきたいと発表した。

### ●質疑応答

Q.市駅ナイトフェスタで行ったアンケートの内容はどのようなものか。

A.年齢・性別、どこから来たか、どこを回ったか、これからの駅前広場への要望、当日の感想について伺った。

Q.活動時間について教えてほしい。

A.11月に始まったプログラムのため、本年度は限られた活動時間であった。次年度は本年度の2倍以上の時間を理想として、楽しみながら活動していきたい。

Q.地域の方と関わるうえで気をつけていることはあるか。

A.できるだけ対等でフラットな関係で関わることを大切にしている。自分たちの想いをしっかりと伝えることを意識して活動した。

## 地域連携プログラム(LPP)の沿革

### ■2008～10 年度(平成 20～22 年度)

地域インターンシップ・プログラム(通称 LIP ※2012 年度に改称)は、2008 年観光学部の設置とともにスタート。観光学部より和歌山県下の自治体への協力要請を行い、各教員が担当する自治体との協議を重ね、早いプログラムでは 2008 年度中に、遅いものでも 2009 年度中にはプログラムの実施に至った。

- ・実施状況／参加学生数(延べ人数):  
6 件／42 名(2008)、8 件／46 名(2009)、3 件／18 名(2010)

### ■2011 年度(平成 23 年度)

- ・地域連携担当の配置
- ・地域インターンシップ実施要項の整備
  - ◇地域(自治体)からプログラム内容について提案を受け付ける「地域提案型」と教員の地域との共同研究をベースとした「申請型」の 2 つのプログラムを設定。
  - ◇主要な活動対象エリアを、和歌山県内に加えて大阪南部の自治体(岬町、阪南市、泉南市、田尻町、泉佐野市、熊取町、貝塚市、岸和田市)にまで拡大。
- ・地域提案募集:5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数(延べ人数):4 件／24 名

### ■2012 年度(平成 24 年度)

- ・名称変更:RIP から LIP へ改称
- ・実施要項の改訂
  - ◇申請型については、主たる活動エリアを和歌山県内と大阪南部以外でも可とした。
- ・地域提案募集:5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数(延べ人数):11 件／80 名

### ■2013 年度(平成 25 年度)

- ・地域連携の所管が観光教育研究センター(現:観光実践教育サポートオフィス)となり、担当者を配置。
- ・LIP の制度改善を図るため、活動実績のある自治体の担当者にヒアリング調査を実施。
- ・LIP の認知度や参加意識を明らかにするため、学生対象のアンケート調査を実施。
- ・地域提案型プログラムの質向上のため、活動実績のある自治体や和歌山市周辺の自治体を廻り、LIP の評価の聞き取りや新制度についての周知活動を実施。
- ・地域提案募集:4 月に送付
- ・実施状況／参加学生数(延べ人数):5 件／73 名

### ■2014 年度(平成 26 年度)

- ・LIP 周知活動の一環として、2014 年度活動の報告書を作成(以後継続して作成)。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数(延べ人数):10 件／139 名

#### ■2015年度(平成27年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2015年度活動の報告書を作成。なお、報告書には、2008～2015年度までのLIPに関するデータを所収(以後継続して所収)。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):15件/191名

#### ■2016年度(平成28年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2016年度活動の報告書を作成。
- ・LIPへの参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施(以後継続して実施)。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):21件/227名

#### ■2017年度(平成29年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2017年度活動の報告書を作成。
- ・LIPへの参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):19件/217名

#### ■2018年度(平成30年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2018年度活動の報告書を作成。
- ・LIPへの参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):13件/190名

#### ■2019年度(令和元年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2019年度活動の報告書を作成。
- ・LIPへの参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LIPの質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP合同活動報告会」を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):14件/194名

#### ■2020年度(令和2年度)

- ・LIP周知活動の一環として、2020年度活動の報告書を作成。
- ・LIPへの参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度3月に送付
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):16件/209名

#### ■2021 年度(令和3年度)

- ・LIP 周知活動の一環として、2021 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LIP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP 合同活動報告会(オンライン)」を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。活動内容の質的向上のため、公募タイプのうち 2021 年度新規提案募集分から、地域側から事前に担当教員の希望を受け付け、教員が承諾したものをプログラム化することとしたため。
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):21 件/231 名
- ・2022 年度(令和 4 年度)から、「地域連携プログラム(Local Partnership Program, LPP)」へと名称・枠組みを変更することとなり、制度設計の見直し・各所への通知などを実施。

#### ■2022 年度(令和 4 年度)

- ・「地域連携プログラム(Local Partnership Program, LPP)」へと名称・枠組みを変更。
- ・LPP 周知活動の一環として、2022 年度活動の報告書を作成。
- ・LPP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LPP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LPP 合同活動報告会」を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。LIP から LPP への移行期間とするため、2022 年度は新規プログラム(L ゼミ地域公募タイプ)の募集は実施せず、2021 年度からの継続プログラムおよび L ゼミ教員申請タイプ、L 活を実施した。
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):19 件/210 名

#### ■2023 年度(令和 5 年度)

- ・LPP 周知活動の一環として、2023 年度活動の報告書を作成。
- ・LPP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LPP での学びや活動の振り返り、共有を目的とした、LPP 参加学生の交流会を実施。
- ・LPP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LPP 合同活動報告会」を実施。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。
- ・実施状況/参加学生数(延べ人数):18 件/189 名

#### ■2024~25 年度(令和 6~7 年度)

- ・LPP 周知活動の一環として、活動の報告書を作成。
- ・LPP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LPP での学びや活動の振り返り、共有を目的とした、LPP 参加学生の交流会を実施。
- ・LPP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LPP 合同活動報告会」を実施。
- ・LPP の質的向上、個々の学生の学びの深化を目的に「LPP 個人レポート課題」を課した。
- ・地域提案募集:地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。
- ・2024 年度実施状況/参加学生数(延べ人数):17 件/155 名
- ・2025 年度実施状況/参加学生数(延べ人数):18 件/156 名

【これまでのLIP/LPP活動地域と活動テーマ一覧】

市町村名	活動年度	活動テーマ
和歌山市	2009	四季の郷公園周辺調査等
	2010	四季の郷公園と周辺農地を利用した農業観光の振興、および中心市街地との連携による活性化調査
	2011	お城を中心としたまちなか回遊性の創出
	2014	和歌山市民の森づくり事業
	2015-16	和歌山公園動物園(通称:お城の動物園)の環境エンリッチメントを通じた観光活用
	2016	地域資源を活用した、見どころマップの作成とまちあるきの実施(山東地域)
		名勝「和歌の浦」の魅力発信
		和歌山市立伏虎中学校の閉校記念誌づくり
	2016-17	観光資源を活用した観光振興の体験と調査・研究(和歌山城におけるおもてなし忍者による観光振興を通じて)
	2017	和歌山公園動物園(通称:お城の動物園)の地域資源としての観光活用～和歌山公園動物園の今後とリニューアルの検討～
	2021-23	加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興
	2022-23	雑賀崎の観光スポット(レモンの丘)整備と活用のための情報発信(L活)
2024-25	雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用(L活)	
2025	ーサッカークラブを活用した地域活性化ーアルテリョヴォ和歌山と学生がつくる地域共創プロジェクト	
2025	まちなかの地域資源と公共空間を活用した和歌山市駅前のまちづくり(L活)	

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩出市	2015	観光地の活性化と情報発信
	2018	SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたいくなるコンテンツ作り
	2019	ねごろ歴史の丘巡りスタンプラリー帳作成
	2020-22	道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀の川市	2009	青洲の里施設内で実習および農家民泊体験、地域住民との意見交換
	2010	「細野溪流キャンプ場」集客向上と地域活性化の検討
	2011	細野溪流キャンプ場を起点とした地域活性化
	2012-16	紀の川市地域活性化
	2018-22	紀の川スイーツの開発
	2023-24	紀の川市の新商品開発プロジェクト
	2025	フルーツドレッシングのPR企画・立案

市町村名	活動年度	活動テーマ
かつらぎ町	2008	花園ふるさとセンターの有効活用に関する調査研究
	2012	かつらぎ町日帰りプランの作成
		都市近郊中山間地域における交流型農業への展開可能性を探る

市町村名	活動年度	活動テーマ
橋本市	2009	青年の家やどりの運営体験およびリニューアルプランの検討

市町村名	活動年度	活動テーマ
海南市	2020-22	交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発
	2023-24	大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、暮らしを継続的なものとするためのステップを議論する
	2025	アクティビティを楽しみながら、地域の魅力を考え、地域内外に伝える(L活)

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀美野町	2014	地域活性化にむけた調査研究(現地ヒアリング)
	2015-17	地区×学生による継続可能な地域活性化にむけた寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信
		世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営(認知症カフェでの実践を通じて)
	2018	地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信
	2018-19	世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営(コミュニティカフェ等での実践を通じて)
	2019-24	地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生
	2020-22	きみのげんきマップの作成
	2025	棚田を学ぶ・棚田で学ぶ 教育要素を取り入れた体験観光

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田市	2013	みかん産地の農家の今後を考える(有田地域みかん農家経営継続課題調査)
		有田地域における魅力的な居住環境を考える(有田地域の居住地選定要因に関する調査)
	2014	地元小学生が見つけた地域の資源に対する傾向・特性調査とその活用提案
	2016	魅力ある図書館づくり—新図書館開館にむけて—
		空き家活用による地域活性化プロジェクト
	2017	市民が集う市民会館づくり—新市民会館開館にむけて—
	2017-18	地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える
	2019	箕島の魅力発信
2020-22	箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見	

	2020-24	青みかん(摘果みかん)の価値を上げる
	2023	ICTの活用による多世代で取り組むまちづくり
	2024	多世代で取り組むまちづくり
	2025	防災で地域をつなぐ多世代交流まちづくり
	2025	青みかん(摘果みかん)の価値を上げる(L活)

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田川町	2008-09	観光スポット調査(鉄道フロムナード、あらぎ島・清水温泉周辺)、および各種施設における就業体験
	2010	観光スポット調査(観光ブドウ園ほか)、および各種施設における就業体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2011	観光スポット調査、および各種施設(鶏卵牧場ほか)における就業体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2012-13	学生との協働による棚田保全活動体制の構築に関する基礎調査
	2014	しみず体験・学習プログラムの開発
	2014-18	学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築
	2019-21	学生との協働による継続的な棚田保全活動(棚田ふあむ)
	2022-24	学生との協働による継続的な棚田保全・集落支援活動
	2025	学生との協働による棚田保全・集落支援活動

市町村名	活動年度	活動テーマ
湯浅町	2009	町内主要施設の視察と集客イベントへの活用法の検討、および有力事業者への観光誘客に関わる聞き取り、イベントにおける JAZZ バンド演奏会の開催
	2023-24	湯浅の若者と共につくる本気の商品開発!

市町村名	活動年度	活動テーマ
広川町	2014-19	津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える
	2020-21	ツギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える
	2022	ツギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える(L活)
	2024-25	和歌山県広川町の地場農産物を活用した新商品の開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
由良町	2014	観光地の新たな魅力発見

市町村名	活動年度	活動テーマ
日高町	2016-17	地域資源の自慢を後世に引き継ぐと共に経済効果のある参加型イベントの企画立案を共に考える

市町村名	活動年度	活動テーマ

日高川町	2008	小学生の農村生活体験実習受入のための基礎調査
	2009	子ども農山漁村交流プロジェクト推進のための学生サポーターおよび課題発見
	2012	日高川町における祭事を中心とした伝統文化と地域活性化についての調査
	2017-19	体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い(かつらぎ町も含む)

市町村名	活動年度	活動テーマ
美浜町	2017	日の岬・アメリカ村の歴史的資源等を活用した観光とふるさと教育
	2019	カナダミュージアムにおけるミュージアム機能の強化
	2020-22	アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信
	2023-24	美浜町の資源を生かした観光誘客
	2025	美浜町の魅力発信と観光誘客

市町村名	活動年度	活動テーマ
みなべ町	2012	みなべ町の新たな魅力発掘・発信事業(みなべ観光協会事業)

市町村名	活動年度	活動テーマ
田辺市	2008	秋津野ガルデン附設レストラン「みかん畑」利用客の観光行動アンケート調査、及び田辺市広域市町村圏の関係者との意見交換
	2009	農山村における UJI ターン者と地元住民との連携
	2012	和歌山県版・農山村ワーキングホリデーのシステム構築
	2017	ほっとスポット温川プロジェクト
	2024-25	地域塾による龍神村の資源を活かした山村活性化(L活)

市町村名	活動年度	活動テーマ
白浜町	2023-24	白良浜他海水浴場における集客力アップ及び顧客ニーズに合ったサービスの企画開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
上富田町	2008	観光資源調査と地域の農・商・工関係者との意見交換会
	2017	地域資源を活用した“おどろきと感動”の地域づくり
	2018-19	笑顔が広がる美しい里づくり
	2025	旅する蝶を見に行こう！学生力と地域力で創造する地域交流コンテンツの開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
すさみ町	2008	各種体験観光施設の調査と関係者への聞き取り
	2025	コモンの再生 First Step『過疎地の芸術祭を通して、新たな観光の意味を見出そう！』～すさみアートキャンプ 2025 における試行と実践～

市町村名	活動年度	活動テーマ
串本町	2017	マグロ料理で観光PR

市町村名	活動年度	活動テーマ
那智勝浦町	2016-18	地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
	2019	地域の文化や風習の体験、獣害対策、農作業、冊子作りを通じて地域の方々と触れ合い、地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
	2020-22	地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。(興味関心に応じて)地域をフィールドにそれぞれの知見を深め、価値を創出していく。
	2023-24	中山間地域における地域ハブ(HUB)の役割と可能性を考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
新宮市	2020-21	新宮市高田区における観光モデルコースの造成
	2024-25	新宮市を訪れる観光客のニーズ調査・分析及びコンテンツ発掘・発信

市町村名	活動年度	活動テーマ
太地町	2009	移民関連勉強会、および地域住民、町職員との意見交換
	2012	地域資源として移民輩出の歴史を活かした観光の活性化を考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
岬町	2012	「道の駅」建設に伴う検討委員会
	2015	マップを手にウォーキングをしたくなる気持ちを沸き立たせる「まち歩きマップ」の作成
	2016	岬フィールドミュージアム構想
	2017	着地型観光による地域活性化の取り組み
阪南市	2016	産業観光ワークショップ HANNAN OSAKA cotton project
	2018-19	地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等
	2020-22	古代米を活用した商品開発、PR に関して。「古代米をおいしく食べる」
	2023-24	阪南市の産業振興と魅力発信
	2025	阪南市の観光振興と魅力発信
田尻町	2015	君が見つけたじりの魅力ー出会いと交流で創る健幸のまちー
熊取町	2015	第4回熊取ふれあい農業祭
	2016	第5回熊取ふれあい農業祭
	2017	第6回熊取ふれあい農業祭
貝塚市	2025	貝塚再発見！学生がつなぐ観光の可能性

岸和田市	2021-22	港湾エリアにおける持続可能なまちづくり
	2021-23	景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
	2021-22	岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来の smile とは
	2023-24	古民家活用を通して地域課題の解決策を考え、実践する。

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩手県奥州市 および和歌山 県	2012	故郷(ふるさと)への誇りを取り戻すためのグリーン・ツーリズム
	2013	農村ワーキングホリデーを通じた農村再生の可能性を探る
	2014-21	農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証
北海道 幕別町	2014-15	地域の観光に係る調査研究(観光と地域のあり方についての調査研究及び観光資源の掘り起こし等)
富山県 南砺市	2015	五箇山における持続可能な観光の実現に向けた実証調査
長野県 飯田市	2015-16	道の駅遠山郷を核とした地域活性化
宮崎県	2016	みやざき観光コンベンション協会からの依頼に基づいた同県「波旅宮崎」キャンペーンのより効果的な展開に対する提案、提言作成
山口県岩国市 および愛媛県 新居浜市	2020	瀬戸内カレッジ 2020
岡山県津山市 および香川県 坂出市	2021	瀬戸内カレッジ 2021
広島県広島市 および香川県 さぬき市	2022	瀬戸内カレッジ 2022
福井県福井市 および富山県 南砺市	2023	北陸カレッジ 2023
沖縄県石垣市	2025	国立公園・石垣で学び、考える、観光ビジネスによる地域活性化

地域・団体名	活動年度	活動テーマ
JAいずみの管内	2011-12	JA 直営型農産物直売所を拠点とした都市農村交流の推進
わかやま産業振 興財団	2015-16	特産果樹がもたらす共創価値の創造(新たな健康・産業づくり)
公益社団法人日 本マスターズ陸 上競技連合	2017	公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合が主催する国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会においてスポーツを通じて、地域の人びとや海外競技者との国際交流

和歌山県	2018	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」、大会参加者に対する観光ツアーの開発(和歌山県全域)
	2019	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」における、観光ツアー同行を通じた観光業務の実践(和歌山県全域)
	2020-21	「紀の国わかやま文化祭2021」学生による文化の魅力発信(和歌山県全域)
	2021-23	「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング(田辺市龍神村)
	2023-24	世界遺産登録20周年プレイベント 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学び、熊野を盛り上げよう。

2025 地域連携プログラム活動報告書

令和8年3月31日発行

発行 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930

印刷 井手印刷株式会社

